

飯塚病院

内科専門研修プログラム



[内科専門研修プログラム……P.1](#)

[専門研修施設群……P.16](#)

[専門研修プログラム管理委員会…P.51](#)

[専攻医研修マニュアル……P.52](#)

[指導医マニュアル……P.59](#)

[各年次到達目標……P.62](#)

[週間スケジュール……P.63](#)

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳(疾患群項目表)』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください

飯塚病院内科専門研修プログラム

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院である飯塚病院を基幹施設として、福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる連携施設・特別連携施設での研修を経て異なる医療を経験・学習し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間(基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間)に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度[研修カリキュラム](#)に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャル分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

- 1) 福岡県筑豊医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1)高い倫理観を持ち、2)最新の標準的医療を実践し、3)安全な医療を心がけ、4)プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院である飯塚病院を基幹施設として、福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる連携施設・特別連携施設での研修を経て異なる医療を経験・学習し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります。
- 2) 飯塚病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である飯塚病院および連携施設・特別連携施設での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます(P. 62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。
- 5) 飯塚病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 1 年次の 3 ヶ月間、2 年次の 6 ヶ月間、3 年次の 3 ヶ月間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である飯塚病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間(専攻医 3 年修了時)で、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします(P. 62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科の専門医
- 4) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

飯塚病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と総合医的なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャル領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、飯塚病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 16 名とします。

- 1) 剖検体数(内科系)は専攻医の数を満たす剖検は十分に実施できます。
- 2) 飯塚病院内科後期研修医数は 1 学年最大 17 名の実績があります。
- 3) 比較的入院患者数が少ない代謝、内分泌、血液、膠原病(リウマチ)領域でさえ、1 学年 17 名に対し十分な症例経験が可能です。

表。飯塚病院診療科別診療実績

2023 年度実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
肝臓内科	706	17,270
呼吸器内科	1,601	23,206
心療内科	0	6,678
内分泌・糖尿病内科	313	18,320
消化器内科	1,476	19,569
血液内科	566	12,282
総合診療科	3,043	13,327
膠原病・リウマチ内科	151	15,766
連携医療・緩和ケア科	679	3,249
循環器内科	1,663	16,513
脳神経内科	620	9,580
腎臓内科	831	25,607
漢方診療科	21	16,764
感染症科	3	2,858
救急部	316	18

- 4) 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています(P.16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。
- 5) 1 学年 17 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医 1～3 年次に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能病院 4 施設および地域医療病院 12 施設、計 16 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。将来の志望専攻科およびそれまでの業績や態度を考慮して研修施設を決定します。

- 7) 専攻医 3 年修了時に「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】[「[内科研修カリキュラム項目表](#)」参照]
専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。
「[内科研修カリキュラム項目表](#)」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】[「[技術・技能評価手帳](#)」参照]
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャル専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8～10】(P. 62 別表 1「[飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標](#)」参照)
主担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修(専攻医)1年:

- ・症例:「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
- ・技能:研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャル上級医とともに行うことができます。
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャル上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修(専攻医)2年:

- ・症例:「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- ・技能:研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャル上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度:専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャル上級医およびメディカルスタッフによる 360 度

評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修(専攻医)3年:

- ・症例: 主担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上(外来症例は 1 割まで含むことができます)を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受けます。査読者の評価を受け、専攻医は病歴要約を形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理(アクセプト)が認められないことを当プログラムは了解しています。
- ・技能: 内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度: 専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャル上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修(専攻医)2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

飯塚病院内科施設群専門研修では、「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設 2 年間+連携・特別連携施設 1 年間)とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 ヶ月単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャル領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します(下記①～⑥参照)。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくはサブスペシャルの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

- ② 定期的(毎週 1 回)に開催する各診療科あるいは合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来(初診を含む)とサブスペシャル診療科外来(初診を含む)のいずれか、もしくは、双方を週 1 回 1 年以上もしくはそれと同等以上の日数を担当医として経験を積みます。
- ④ 救命救急センター外来(平日夕方・土日祝日)で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 担当医もしくは当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 必要に応じて、サブスペシャル診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法などで研鑽します。

- ① 定期的(毎週 1 回程度)に開催する各診療科でのカンファレンス、症例検討会、抄読会、レクチャー など
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ CPC
- ④ 研修施設群合同カンファレンス
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス
- ⑥ JMECC 受講
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会(下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照)
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

4) 自己学習【整備基準 15】

「[研修カリキュラム項目表](#)」では、知識に関する到達レベルを A(病態の理解と合わせて十分に深く知っている)と B(概念を理解し、意味を説明できる)に分類、技術・技能に関する到達レベルを A(複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる)、B(経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる)、C(経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる)に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A(主担当医として自ら経験した)、B(間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した))、C(レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した)と分類しています。(「[研修カリキュラム項目表](#)」参照)自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法などで学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低

56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。

- ・専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理(アクセプト)されるまでシステム上で行います。
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等(例:CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会)の出席をシステム上に登録します。

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

飯塚病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとの実績を記載しました(P.16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である飯塚病院教育推進本部が把握し、定期的に専攻医に周知し、出席を促します。

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

飯塚病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う(EBM:evidence-based medicine)。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする(生涯学習)。
- ④ 診断・治療および医療システムなどに関する研究に関わる。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

飯塚病院内科専門研修施設群では基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画*に年 2 回以上参加します(必須)。
※主として日本内科学会が推奨する日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャル学会の学術講演会・講習会。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究に関わります。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として2件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、飯塚病院内科専門研修プログラムの修了認

定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

飯塚病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、指導医、サブスペシャル上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である飯塚病院の教育推進本部が把握し、定期的に専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

多岐にわたる疾患群を経験するため、飯塚病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる医療機関などから構成されています。

飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能病院である九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院、神奈川県立循環器呼吸器病センター、および地域医療病院である潁田病院、飯塚記念病院、京都(みやこ)病院、田川新生病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、伊東市民病院、三重県立志摩病院、瀬戸内徳州会病院、古賀総合病院、陣内病院、前田病院で構成しています。

九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院では、飯塚病院とは異なる医療圏において、高度な急

性期医療とより専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療を経験します。

穎田病院、飯塚記念病院、京都病院、田川新生病院、松口循環器科内科医院では、同じ筑豊医療圏において、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を経験します。

千葉県の東京ベイ・浦安市川医療センターは、急性期でありながらも地域医療振興協会の活動として、定期的に指導医が地域の僻地診療を行っているため、ローテーション時にはその診療についても指導を受ける機会があります。また、同施設で指導にあたる内科医師 5 名は飯塚病院研修修了者・指導医であり（地域医療を守るために赴任を支援してきました）、このため当院と同等の研修の質は保たれます。

神奈川県立循環器呼吸器病センターは、循環器および呼吸器疾患の専門病院です。陣内病院、前田病院は、地域における腎臓内科専門研修を行う場です。いずれも飯塚病院では経験できない希少かつ重要な症例を、経験豊富な指導医の下で学ぶ事ができます。なお、前田病院には飯塚病院の元指導医経験者がいます。

瀬戸内徳州会病院、伊東市民病院、三重県立志摩病院、古賀総合病院は、都市部の総合病院では経験できないような、僻地・離島の診療を研修するために賛同を得られた施設です。

連携施設の中には距離が離れている施設もありますが、全連携施設での研修中は、飯塚病院のプログラム管理委員会と各施設の研修担当者などが管理と指導の責任を持ちます。特別連携施設での研修においては、飯塚病院の指導医が定期的に各施設を訪れ、各施設の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。なお、各連携施設・特別連携施設での研修中は施設近辺に宿泊施設を設けるなど、基幹施設と連携施設とが相互に協力し、専攻医が研修に集中できる環境を整えます。

10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

飯塚病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

飯塚病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11.内科専攻医研修(モデル)【整備基準 16】

図 1。飯塚病院内科専門研修モデル

月 年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医 1 年次	飯塚病院 院内内科ローテーション (1 単位 6 週～7 週)									連携施設①3 ヶ月 穎田病院、飯塚記念病院 より調整の上、決定		
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など											
専攻医 2 年次	飯塚病院 院内内科 ローテーション			連携施設②3 ヶ月 東京ベイ・浦安市川医療 センター			連携施設③3 ヶ月 瀬戸内徳州会病院、 三重県立志摩病院、 伊東市民病院 より調整の上、決定			飯塚病院 院内内科 ローテーション		

	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など	
専攻医 3年次	連携施設④3ヶ月	飯塚病院 院内内科ローテーション
	全連携施設 より調整の上、決定	
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC など	

※院外ローテーションは原則案であり、時期およびローテーション先は、専攻医数および当院もしくは連携施設の状況によっては、例外として、各年次研修先の調整や変更を、当方の判断で行なうこともある。

専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬に専攻医の希望・将来像、研修達成度および指導医数やメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、飯塚病院院内ローテーション診療科・連携施設・時期・順番を決定します。原則 1 年次の 1～2 単位は救急部ローテーションがあります。

選択可能な飯塚病院院内内科ローテーション診療科は、肝臓内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器内科、血液内科、総合診療科、膠原病リウマチ内科、緩和ケア科、腎臓内科、循環器内科、神経内科、漢方診療科、心療内科、救急部などです。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22】

(1) 飯塚病院教育推進本部の役割

- ・飯塚病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・飯塚病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・4 ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回(8 月頃と 2 月頃、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・教育推進本部は、メディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を毎年複数回(8 月頃と 2 月頃、必要に応じて臨時に)を行います。担当指導医、サブスペシャル上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから複数名を評価者として指名します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、教育推進本部もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します(他職種はシステムにアクセスしません)。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット(施設実地調査)に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医(メンター)が飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年次専門研修終了時に[研修カリキュラム](#)に定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年次専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年次専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や教育推進本部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャルの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・担当指導医はサブスペシャル上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修(専攻医)2 年修了時まで 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修(専攻医)3 年次修了までにすべての病歴要約が受理(アクセプト)されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会にて検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】(P. 62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)

- 1) 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi)の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができる)を経験することを目標にし、その研修内容を J-OSLER に登録していること。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる)を経験し、登録済みであること。
 - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)
 - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) メディカルスタッフによる 360 度評価と、指導医による内科専攻医評価を参照し、医師としての適性を判定
- 2) 飯塚内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認

し、研修期間終了約 1 ヶ月前に飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画(FD)の実施記録」は、J-OSLER を用います。なお、「飯塚病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】(P. 52)と「飯塚病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】(P. 59)と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】

(P.51「飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

1) 飯塚病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

- i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者(院長)、プログラム管理者(診療科部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)、事務局代表者、内科サブスペシヤル分野の研修指導責任者(診療科部長または部長が指名する医師)および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医にも委員会の一部に参加を要請することがあります。飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を、飯塚病院教育推進本部におきます。
- ii) 飯塚病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名(指導医)は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、年に複数回開催する飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績(対象期間:前年 4 月～当年 3 月)
 - a) 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d)1ヶ月あたり内科外来患者数、e)1ヶ月あたり内科入院患者数、f)剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表、b)論文発表
- ④ 施設状況
 - a) 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科とのカンファレンス、e) 図書館、f) 文献検索システム、g) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、h) JMECC の開催
- ⑤ サブスペシヤル領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数、日本肝臓学会肝臓専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医(内科)数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14.プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLER を用います。

15.専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

基幹施設である飯塚病院の就業環境に基づき就業しますが、連携施設もしくは特別連携施設での研修時は飯塚病院と連携先施設との取り決めによる就業環境に基づき、就業します(P.16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。

基幹施設である飯塚病院の整備状況:

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・飯塚病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に24時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.16「飯塚病院内科専門施設群」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、飯塚病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指

導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・担当指導医、施設の内科研修委員会、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて、専攻医の研修状況を定期的にモニタし、飯塚病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して飯塚病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は、J-OSLER を用いて、担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます・状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

飯塚病院教育推進本部と飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会は、飯塚病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて飯塚病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

飯塚病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、常時ホームページでの公表や、説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、機構によって定められた期日と応募方法に従って応募します。書類選考および面接を行い、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定します。

飯塚病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なくJ-OSLERにて登録を行います。

【問い合わせ先】 飯塚病院教育推進本部
E-mail: aih-education@aih-net.com
ホームページ: <http://aih-net.com/>

18.内科専門研修の休止-中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて飯塚病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから飯塚病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から飯塚病院内科専門研修プログラムに移動する場合で、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに飯塚病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期

間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。海外留学期間は、原則として研修期間と認めません。

飯塚病院内科専門研修施設群
（地方型一般病院のモデルプログラム）
研修期間：3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）

図1。飯塚病院内科専門研修モデル

年次	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医 1年次	飯塚病院 院内内科ローテーション (1単位6週～7週)										連携施設①3ヶ月 穎田病院、飯塚記念病院 より調整の上、決定		
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など												
専攻医 2年次	飯塚病院 院内内科 ローテーション			連携施設②3ヶ月 東京ベイ・浦安市川医療 センター			連携施設③3ヶ月 瀬戸内徳州会病院、 三重県立志摩病院、 伊東市民病院 より調整の上、決定			飯塚病院 院内内科 ローテーション			
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など												
専攻医 3年次	連携施設④3ヶ月 全連携施設 より調整の上、決定			飯塚病院 院内内科ローテーション									
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC など												

※院外ローテーションは原則案であり、時期およびローテーション先は、専攻医数および当院もしくは連携施設の状況によっては、例外として、各年次研修先の調整や変更を、当方の判断で行なうこともある。

専攻医 1年次および 2年次の秋から冬に専攻医の希望・将来像、研修達成度および指導医数やメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、飯塚病院院内ローテーション診療科・連携施設・時期・順番を決定します。原則 1年次の 1～2 単位は救急部ローテーションがあります。

選択可能な飯塚病院院内内科ローテーション診療科は、肝臓内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器内科、血液内科、総合診療科、膠原病リウマチ内科、緩和ケア科、腎臓内科、循環器内科、神経内科、漢方診療科、心療内科、救急部などです。

表 1。飯塚病院内科専門研修施設群研修施設(2023年4月現在、剖検数 2022 年度実績)

	病院名	病床数	内科系病 床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹	飯塚病院	1,048	570	17	43	53	8
連携	九州医療センター	702	321	13	33	15	10
連携	小倉記念病院	658	316	8	14	8	10
連携	仙台厚生病院	409	300	5	19	20	8
連携	総合南東北病院	461	88	5	10	8	10
連携	水戸協同病院	372	160	9	14	13	7
連携	亀田総合病院	917	521	13	39	42	34
連携	国立がん研究センター東病院	425	264	21	21	22	3
連携	国立病院機構相模原病院	485	211	7	21	16	18
連携	東京ベイ ・浦安市川医療センター	344	130	8	29	20	4
連携	諏訪中央病院	360	230	14	16	12	3
連携	伊東市民病院	250	135	7	3	3	6
連携	三重県立志摩病院	250	60	5	3	3	2
連携	天理よろづ相談所病院	715	-	7	40	26	5
連携	今村総合病院	428	200	14	10	14	0
連携	古賀総合病院	363	116	8	34	8	0
連携	前田病院	129	110	9	1	3	0.3
連携	神奈川県立循環器 呼吸器病センター	239	199	3	14	18	2
連携	市立大町総合病院	199	130	10	6	6	3
連携	国立循環器病研究センター	527	279	11	77	42	26
連携	倉敷中央病院	1,172	445	10	77	47	13
連携	愛媛県立中央病院	827	300	9	35	34	10
連携	近森病院	489	250	13	29	24	9
連携	中部徳洲会病院	408	140	8	4	7	6
連携	沖縄県立中部病院	559	201	10	35	26	8
連携	大同病院	404	218	14	23	15	15
連携	松山赤十字病院	585	246	11	28	32	5
連携	済生会熊本病院	400	142	8	44	44	1
連携	宮崎市郡病院	267	124	3	15	53	10
連携	明石医療センター	382	215	6	20	19	4
連携	大原総合病院	353	230	13	14	2	2
連携	島根県立中央病院	568	145	14	22	19	5
連携	新武雄病院	195	30	5	2	0	0
連携	霧島市立医師会医療センター	254	57	6	6	6	4
連携	ハートライフ病院	208	142	5	14	8	7

連携	中頭病院	355	174	9	20	19	6
連携	南砺市民病院	175	48	6	2	6	2
連携	松波総合病院	501	194	10	28	28	25
連携	山口赤十字病院	377	80	8	10	12	3
連携	宇部興産中央病院	384	159	6	2	5	-
連携	徳之島徳洲会病院	199	40	5	1	1	-
連携	沖縄県立八重山病院	302	96	5	7	7	-
連携	名瀬徳洲会病院	289	4	1	1	1	0
連携	公立陶生病院	633	293	11	31	26	8
連携	熊本赤十字病院	490	100	10	21	25	10
特別連携	松口循環器科内科医院	0	0	1	1	0	0
特別連携	潁田病院	96	96	2	0	0	0
特別連携	天心堂へつぎ病院	188	65	5	4	6	0
特別連携	飯塚記念病院	400	0	1	1	1	0
特別連携	田川新生病院	90	30	5	0	0	0
特別連携	京都病院	174	174	4	1	1	0
特別連携	陣内病院	34	34	2	0	1	0
特別連携	瀬戸内徳洲会病院	60	60	1	0	0	0

表 2.各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

○:十分に経験できる △:時々経験できる ×:全く経験できない

	病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
基幹	飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
連携	九州医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○
連携	小倉記念病院	×	○	○	×	×	○	△	○	○	×	×	△	○
連携	仙台厚生病院	○	○	○	△	○	△	○	○	△	○	○	○	○
連携	総合南東北病院	○	○	○	△	○	△	○	△	○	○	△	○	○
連携	水戸協同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	亀田総合病院	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○
連携	国立がん研究センター東病院	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	×
連携	国立病院機構相模原病院	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
連携	東京ベイ・浦安市川医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○
連携	諏訪中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	伊東市民病院	○	○	○	×	△	×	○	×	△	△	△	×	○
連携	三重県立志摩病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	×	△	△
連携	天理よろづ相談所病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

連携	今村総合病院	○	○	△	△	△	○	○	○	△	△	○	○	○
連携	古賀総合病院	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	×	△	×
連携	前田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	神奈川県立循環器呼吸器病センター	△	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
連携	市立大町総合病院	○	△	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△
連携	国立循環器病研究センター	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
連携	倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
連携	近森病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	中部徳洲会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	大同病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	松山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	済生会熊本病院	○	○	○	×	△	○	○	△	○	○	△	○	○
連携	宮崎市郡医師会病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	○
連携	社会医療法人愛仁会明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
連携	一般財団法人大原記念財団大原総合病院	○	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△	△	○
連携	島根県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	新武雄病院	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○
連携	霧島市立医師会医療センター	○	○	○	△	×	×	×	○	×	△	×	△	○
連携	ハートライフ病院	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○
連携	中頭病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	△	○	○
連携	南砺市民病院	○	○	△	×	△	△	○	○	○	×	×	○	○
連携	松波総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	山口赤十字病院	○	○	○	○	△	○	○	×	○	△	○	△	○
連携	宇部興産中央病院	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
連携	徳之島徳洲会病院	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○
連携	沖縄県立八重山病院	○	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	△	○
連携	名瀬徳洲会病院	○	○	○	×	×	×	△	×	○	×	×	×	○
連携	公立陶生病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携	熊本赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
特別連携	松口循環器科内科医院	○	×	○	×	×	×	○	×	×	○	×	×	×
特別連携	颯田病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	×	△	△	○
特別連携	天心堂へつぎ病院	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
特別連携	飯塚記念病院	○	×	△	△	○	○	○	×	△	×	×	△	△
特別連携	田川新生病院	△	△	△	△	△	△	△	×	○	×	×	×	×
特別連携	京都病院	○	○	○	△	△	△	△	△	○	△	△	△	×
特別連携	陣内病院	○	△	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△
特別連携	瀬戸内徳州会病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	△	○	○

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

多岐にわたる疾患群を経験するため、飯塚病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる医療機関などから構成されています。

飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能病院である九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院、神奈川県立循環器呼吸器病センター、および地域医療病院である潁田病院、飯塚記念病院、京都（みやこ）病院、田川新生病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、伊東市立病院、三重県立志摩病院、瀬戸内徳州会病院、古賀総合病院、陣内病院、前田病院で構成しています。

九州医療センター、小倉記念病院、今村総合病院では、飯塚病院とは異なる医療圏において、高度な急性期医療とより専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療を経験します。

潁田病院、飯塚記念病院、京都病院、田川新生病院、松口循環器科内科医院では、同じ筑豊医療圏において、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療を経験します。

千葉県の東京ベイ・浦安市川医療センターは、急性期でありながらも地域医療振興協会の活動として、定期的に指導医が地域の僻地診療を行っているため、ローテーション時にはその診療についても指導を受ける機会があります。また、同施設で指導にあたる内科医師 5 名は飯塚病院研修修了者・指導医であり（地域医療を守るために赴任を支援してきました）、このため当院と同等の研修の質は保たれます。

神奈川県立循環器呼吸器病センターは、循環器および呼吸器疾患の専門病院です。陣内病院、前田病院は、地域における腎臓内科専門研修を行う場です。いずれも飯塚病院では経験できない希少かつ重要な症例、経験豊富な指導医の下で学ぶ事ができます。なお、前田病院には飯塚病院の元指導医経験者がいます。

瀬戸内徳州会病院、伊東市民病院、三重県立志摩病院、古賀総合病院は、都市部の総合病院では経験できないような、僻地・離島の診療を研修するために賛同を得られた施設です。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬の間、専攻医の希望・将来像、研修達成度、および内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- ・ 専攻医 3 年次には研修達成度により、サブスペシャル研修の是非も含めて調整します。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

連携施設の中には距離が離れている施設もありますが、全連携施設での研修中は、塚病院のプログラム管理委員会と各施設の研修担当者とが管理と指導の責任を持ちます。特別連携施設での研修においては、飯塚病院の指導医が定期的に各施設を訪れ、各施設の上級医とともに、専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。なお、各連携施設・特別連携施設での研修中は施設近辺に宿泊施設を設けるなど、

基幹施設と連携施設とが相互に協力し、専攻医が研修に集中できる環境を整えます。

1) 専門研修基幹施設

株式会社麻生 飯塚病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN、Wi-Fi)があります。 ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ● 敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 指導医は 43 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行います(2023 年実績 医療倫理 6 回、医療安全 7 回、感染対策 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に行います(2023 年実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ● 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 45 以上の疾患群)について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し、定期的に行います。 ● 治験管理室を設置し、定期的に行います。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
<p>指導責任者</p>	<p>増本 陽秀 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。</p>
<p>指導医数 (常勤医) [2024 年度]</p>	<p>日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 53 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 8 名、日本感染症学会専門医 4 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数 [2023 年度実績]</p>	<p>総外来患者 23,400 名 総入院患者 21,255 名 内科外来患者数 7,810 名 内科入院患者数 12,145 名</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を</p>

	幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・潁田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 など</p>

2) 専門研修連携施設

独立行政法人国立病院機構九州医療センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 2) 非常勤医師として労務環境が保障されている。 3) メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。 4) ハラスメント委員会が整備されている。 5) 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 6) 敷地近辺に職員保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医が33名在籍しています。専攻医の指導、評価方法に関する事項、などについて以下の方法で研鑽を積む。</p> <ol style="list-style-type: none"> i. 定期的(毎週1回程度)に開催する各診療科での抄読会 ii. 医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会(基幹施設: 2014年度医療安全2、感染防御2、医療倫理はCITI-JIによるWEB講習) <p>*内科専攻医は年に2回以上受講する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> iii. CPC (基幹施設2014年度実績5回) iv. 研修施設群合同カンファレンス v. 地域参加型のカンファレンス vi. JMECC受講(基幹施設:2017年度年1回開催予定) *内科専攻医は必ず専門研修1年もしくは2年までに1回受講する。 vii. 内科系学術集会 viii. 各種指導医講習会、JMECC指導者講習会など
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者として 2 件以上行う(必須)。
指導責任者	冨永 光裕(内科専門研修管理委員会委員長・高血圧内科科長)
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 17、336 名(1ヶ月平均) 入院患者 18、426 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	九州における有数の高度総合医療施設であり、循環器、消化器、呼吸器をはじめ内分泌代謝、血液、膠原病等幅広い分野で専門的医療を行い、さらに九州ブロックにおけるエイズ診療、災害医療の拠点病院、がん診療連携拠点病院、地域医療支援拠点病院として地域医療の中核として高い専門性と総合力を有している。地域医療機関との病診連携、病病連携に力を入れているため地域の拠点病院としての役割を果たしている。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 など

一般財団法人平成紫川会小倉記念病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室が整備されています。 ・ 当院と隣接する施設内に当院専用の保育所があります。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 14 名在籍しています。 ・ 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催(2014 年実績 11 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(地域研究会、地域学術講演会、腎病理カンファレンスなどを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、腎臓、血液、神経、救急の分野において、定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>金井英俊 【内科専攻医へのメッセージ】 専攻医の皆さんの可能性を引き出し、地域医療を支える総合内科医師や内科系 subspecialty 分野の専門医へと歩み続けることができるような研修体制を行います。</p>
<p>指導医数 (常勤医) 重複あり</p>	<p>日本内科学会指導医 14 名、総合内科専門医 8 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>総外来患者 29,812 名 総入院患者 17,646 名</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医 教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本がん治療医認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本病理学会研修認定施設 B</p>

	日本腹膜透析医学会教育研修施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本脈管学会認定研修施設 日本肝胆膵外科学会認定施設 B など
--	---

仙台厚生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署(総務部)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置、既存の医学教育支援室と連携し活動します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2023 年度実績 43 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催(2023 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(広瀬川内視鏡診断勉強会、臨床胃腸病研究会、泉消化器勉強会、宮城消化管撮影研究会、SKIP Network 世話人講演会、院内感染対策セミナー、仙台厚生病院連携セミナー、循環器疾患臨床勉強会、EVT ワークショップ、心不全治療勉強会、ストラクチャークラブ・ジャパン研究会、心臓センター勉強会など;2017 年度実績 23 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(年1回開催、インストラクター2 名在籍、院内開催実績 7 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医学教育支援室が対応します。 ・特別連携施設(永仁会病院、古川星陵病院、仙石病院、広南病院)の専門研修では、電話や週 1 回の仙台厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、読影室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的を開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催(2022 年度実績 10 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2017 年度実績 3 演題)をしています。
指導責任者	木村 雄一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台厚生病院は宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏および大崎・栗原医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏にある連携施設・特別連携施設

	<p>とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p> <p>なお特記すべき内容として、三陸沿岸からの移住者が震災後に非常に増加している大崎・栗原医療圏の地域密着型病院での研修を必須としています。これらの施設では訪問診療を含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名、日本内科学会認定内科医 36 名、内科専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 15 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本肝臓内科肝臓専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,619 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 9,328 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本循環器学会循環器専門医研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本感染症学会研修施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設</p> <p>日本カプセル内視鏡学会指導施設</p> <p>経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設</p> <p>浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設</p> <p>下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設</p> <p>経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術指導施設</p> <p>日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医連携修練施設</p> <p>日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設</p> <p>補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設</p> <p>日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定の経皮的動脈管閉鎖術施行施設</p> <p>日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定の経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会潜性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設</p> <p>日本心エコー図学会 心エコー図専門医制度研修認定施設</p> <p>日本アレルギー学会 アレルギー専門医準教育研修認定施設 など</p>

一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<p>初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・総合南東北病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<p>・指導医が 10 名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に企画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>神経内科 科長 金子 知香子 若い時に出来るだけたくさんの症例を経験してください。守備範囲を決めるのは自分自身です。当院は軽症例から重症例まで幅広く経験することができます。医師不足に悩む地方都市の中核病院であり、症例や手技の取りあいはありません。臨床の出来ない医師にならないように、臨床の基礎から難病・重症例の対応まで丁寧に指導します。脳神経内科では脳卒中、神経免疫疾患、神経変性疾患、神経感染症、神経筋疾患など神経救急から慢性期まですべてを経験できます。グループ制ではないため多種類の疾患を同時に経験する事も可能です。福島県立医科大学名誉教授である山木悌司先生、現・福島県立医科大学医学部多発性硬化症治学講座・藤原一男教授が在籍され、系統だった神経診察の指導、学会発表・研究・論文指導をしています。 若い時の 3 年間は貴重です。臨床経験を積んだ後、大学院進学、また修練のための他院への移動など、様々な進路にも柔軟に対応できる病院です。出産・育児・介護、また自分自身の病気といったライフ・イベントへのサポート体制も整っています。臨床医を目指す方、大学に進む研究テーマを探している方、ぜひ貴重な 3 年間で一緒に研鑽を積みましょう。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本消化器病学会消化器病専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者数:504, 714 名(1 年・延人数) 入院患者数:180, 619 名(1 年・延べ人数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 等
-----------------	---

水戸協同病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、民間病院の中に国立大学の教育システムを導入して、筑波大学の教員である医師が共同で診療・教育を行っています。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。筑波大学附属図書館と直結したインターネット回線があり、筑波大学で契約している電子ジャーナルを共有しています。 ・ 病院職員(常勤)として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスおよびハラスメントに適切に対処する部署があります(茨城県厚生連内)。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 14 名在籍しています。 ・ 総合病院水戸協同病院総合内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、プログラム管理委員長)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修管理委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2023 年度 3 回、2022 年度 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2023 年度 2 回、2022 年度 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC(2023 年度 4 回)、マクロ CPC(2023 年度 4 回)を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績 2 回)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検(2023 年度 7 体)を行っています。 ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検(2023 年度 7 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、不定期に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。筑波大学の教員が訪問して臨床研究相談会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会で積極的に学会発表をしています。
指導責任者	小林 裕幸 【内科専攻医へのメッセージ】

	水戸協同病院は筑波大学附属病院水戸地域医療教育センターを設置し、大学病院でも一般病院でも実現困難な、全く新しい診療と臨床研修体制を実現しました他に例を見ないこの体制は誰もが描く診療と研修の理想像に近く、あの Tierney 先生の一弟子である UCSF の Dhaliwal 先生をして「嫉妬を感じる」と言わしめた体制です。その体制の中核は、病院全体が水戸協同病院でありかつ教育センターであること、内科、救急、集中治療の間に垣根がない総合診療体制で、他のすべての科を含んだ病院全体が一体化していること、毎朝、毎週、全内科はもちろん病理学部門を含む主要科がそろって症例検討すること、教授から研修医までみんなの目線が等しくいつでもどこでも、普通に気軽に相談、討論できること、そして、「すべては研修医のために」を方針として常に体制を見直していることです。さあ、皆さん、一緒に学び、そして地域医療に貢献しようではありませんか。
指導医数 (常勤医) 重複あり	日本内科学会指導医 14 名, 日本内科学会総合内科専門医 13 名, 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 2 名, 日本糖尿病学会専門医 3 名, 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 271.6 名(1 日平均) 内科入院患者 164.1 名(1 日平均)2023.4~2024.3
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、「研修手帳(疾患群項目表)」にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会(NST 稼動施設認定) 日本頭痛学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本人間ドック学会会員施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本緩和医療学会緩和ケアチーム登録施設 救急科専門医指定施設、DMAT 指定病院 茨城県広域スポーツセンタースポーツ医科学推進事業協力医療機関認施設 など

亀田総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境 ・ メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・ 悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 ・ ハラスメント委員会の整備 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・ 敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・ 病院併設の体育館、トレーニングジム ・ その他、クラブ活動、サーフィン大会
認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。 ・ 連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をす

2)専門研修プログラムの環境	ることができるようウェブ会議ができる環境。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。 内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や病歴報告を記載します。これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)。 ※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスチョンを見出し臨床研究を行う。 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として 2 件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	中路 聡 【専攻医へのメッセージ】 亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を修得するための研修プログラムを準備しています。 これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供いたします。「自由と責任」、「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働きましょう！
指導医数 (常勤医)	日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本肝臓学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 7 名 臨床腫瘍学会 1 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本救急医学会専門医 5 名 など
外来・入院患者数	外来患者数:72460 人/年 入院患者数 21556 人/年
経験できる疾患群	全 70 疾患群、200 症例以上を経験することを目標とします。 内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。
経験できる地域医療・診療連携	病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶことができます。
学会認定施設 (内科系)	・日本内科学会認定医制度における教育病院 ・日本病院総合診療医学会 認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本内分泌学会認定教育施設 ・日本甲状腺学会認定専門医施設 ・日本血液学会認定血液研修施設

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本透析医学会認定施設 ・日本高血圧学会専門医認定施設 ・日本急性血液浄化学会認定指定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定 ・日本消化器がん検診学会認定指導施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など
--	--

国立がん研究センター東病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内に研修に必要なインターネット環境が整備されている。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名以上在籍している(下記) ・研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ることができる。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 (2023 年度実績: 医療倫理 4 回、医療安全 2 回、感染対策講習会 2 回) ・研修施設郡合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、血液、感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表をしている。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>内藤 陽一 【内科専攻医へのメッセージ】 国立がん研究センター東病院は、世界最高のがん医療の提供、世界レベルの新しいがん医療の創出を行う最高峰の施設です。がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療 中核拠点病院、特定機能病院等にも指定され、豊富な症例経験、様々な領域を専門とする指導医によるがん診療を含め、高度な技能の習得が可能です。様々な臓器にまたがる疾患を経験することにより、内科専門医としての幅広い知識や技能を習得することと共に、コミュニケーションスキル・トレーニングや、チーム医療、地域医療との連携により、全人的な医療従事者として活躍できるための支援・指導を行います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、内科専門医 19 名、認定内科医 35 名 日本臨床腫瘍学会指導医 18 名、がん薬物療法専門医 17 名 日本肝臓学会指導医 1 名、肝臓専門医 7 名 日本血液学会指導医 3 名、血液専門医 6 名</p>

	日本呼吸器学会指導医 3 名、呼吸器専門医 6 名 日本消化器病学会指導医 8 名、消化器病専門医 28 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 18,817 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 7,503 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患軍港目標)にある、総合内科Ⅲ(腫瘍)、消化器、呼吸器、血液の分野で主要疾患を中心に経験することができます。
経験できる技術・技能	該当する疾患に対して、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 など

国立病院機構相模原病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	労働基準法、医療法を順守する。 基幹施設及び連携施設の就業環境(添付資料参照)に基づき、就業する。 国立病院機構相模原病院の整備状況： ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ・メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する窓口がある。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。 総括評価の際に専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価を行う。内容はプログラム管理委員会に報告され、適切な改善を基幹および連携施設に対して助言できるように図る。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 21 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催している(2020 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的で開催(2022 年度実績 5 回、2023 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病、血液内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。 感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準 24】	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2014 年度実績 3 演題)をしている。

4)学術活動の環境	
指導責任者	森田 有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常(リウマチ、アレルギー)の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。 それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本血液学会血液専門医 1 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 8 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,848 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 291 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした 医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液内科学会認定教育施設 など

東京ベイ・浦安市川医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(委員会および診療支援課)があります。 ・ ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 職員用保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 29 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修管理委員会と医師・研修管理室を設置しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 4 回)し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、定期的に開催(2023 年度実績 12 回、審査 82 件)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>江原 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です。年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり、豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコンディジーズを幅広く経験できます。患者層も若年～超高齢者まで幅広く様々です。当院では総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し、症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる 2 人指導医体制により、幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます。 またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。 設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 29 名、日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 3 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、日本消化管学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 8 名、日本集中治療医学会専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 5,403 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 618 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・疾病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設認定 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本集中治療医学会研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設</p>

	日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本内科学会教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病院総合診療医学会認定施設、など。
--	---

諏訪中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 組合立諏訪中央病院の会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課庶務係)があります。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 16 名在籍しています。(2023 年度時点) ・ 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年度実績: 各 2 回)して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2022 年度実績: 5 回)して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型カンファレンス(病院・開業医合同勉強会『二水会』(例年 4 回開催、2022 年度は感染対策のため中止)、地域合同カンファレンス(例年 4 回開催、2022 年度は感染対策のため中止))を定期的に開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(内科ケースカンファレンス)を定期的に開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検(2021 年度 5 体、2022 年度 3 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・ 倫理委員会を設置/開催しています。 ・ 臨床研修・研究センターを設置して研究に関するとりまとめを行っています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	若林 禎正 【内科専攻医へのメッセージ】 患者のどのような訴えにも耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要な場合には迅速に専門医へ紹介する能力を養います。先進医療だけではなく、回復期リハビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問診療・往診をし、シームレスで患者や家族の生活に寄り添う医療を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本感染症学会感染症専門医 2 名 他

外来・入院患者数	外来患者 17,228 名(全科 1ヶ月平均)(令和 3 年度実績) 入院患者 598 名(全科 1ヶ月平均)(令和 3 年度実績)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療専門研修プログラム施設 日本東洋医学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会・NST稼働施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会関連施設 日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本臨床神経生理学会準教育施設 他

伊東市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 当直室の各部屋にはテレビ、冷蔵庫、ユニットバス完備。 その他に、休憩室、更衣室、トレーニングルームを整備しています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 院内に職員用の大浴場(源泉かけ流し)を完備しており、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	指導医が 3 名在籍しています。 医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催(2014 年実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 内科は現在、循環器内科と消化器内科が独立していますが、呼吸器内科、リウマチ内科、神経内科、内分泌内科を含め、総合内科として包括的な診療を基本としています。救急診療は年間 6500 件超、救急車搬入件数年間 3500 件超、CPA 受入数年間 120 件超と、所謂”2.5 次医療機関”として多種多様な疾患に対応しています。CPC を隔月で開催し、他、多職種を交えた総合カンファレンス、毎日の臨床検討会・勉強会を実施しています。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	総合内科、消化器、循環器、呼吸器、膠原病及び類縁疾患の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会ならびに、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会での学会発表を不定期に行っております。
指導責任者	川合 耕治 【内科専攻医へのメッセージ】 伊東市民病院は救急医療の充実とそれを支える各診療機能の連携を通して、伊東市ならびに伊豆東海岸の急性期医療を担う病院として機能を高めてきました。更に地域医療振興協

	会関連の6診療所、1病院と連携して伊豆半島の包括的医療について関わりたいと努力しております。臨床研修ではそういった背景の中で総合的・実践的な診療の力を身につけたい方のための研修プログラムを実施して、地域医療で活躍できる人材の育成に力を注いでいます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定医 3名、日本内科学会総合内科専門医 1名、日本消化器病学会消化器専門医 1名、日本循環器学会循環器専門医 1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1名
外来・入院患者数	外来患者 42,542名/年 入院患者 2,314名/年
経験できる疾患群	13領域のうち、11領域 37疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	13領域・70疾患群のうち、研修医手帳に記載のある各疾患群に対応した技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	市内唯一の急性期病院であり、地域の医療・介護・福祉施設との連携を行いながら救急・入院治療・リハビリ・退院支援までの一連の流れを経験できます。 現在は地域医療支援病院を目指し、病診連携・病病連携にも力を入れています。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定制度教育関連病院

三重県立志摩病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・県立病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当、外部カウンセラー)があります。 ・ハラスメント委員会が県立志摩病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が3名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2014年度実績 医療倫理 1回(複数回開催)、医療安全12回(各複数回開催)、感染対策12回(各複数回開催)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催(2014年度実績1回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2014年度実績 病診、病病連携カンファレンス7回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2014年度実績6演題)を予定しています。
指導責任者	<p>村田 博</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>三重県立志摩病院は、三重県志摩地域の中心的な急性期病院であり、東京ベイ・浦安市川医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師1人あたりの診療患者数は、適度かつ多種多様な疾患を経験することができます。救急や一般外来の時点から、入院中、さらに退院後フォローまで患者さんを一貫して対応可能です。さらに希望者には内視鏡や腹部・心エコーの技術研修も可能です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・各科に分化していない内科なので、出会える疾患は多岐に渡ります。各指導医の得意分野も、消化器疾患、循環器疾患、糖尿病・内分泌、神経内科と分かれており、より深い指導を受けることもできます。 ・週に1回カンファレンスを行い、全員の入院症例についてディスカッションする機会を設けています。研修病院として研修医、学生実習を受け入れており、後輩の指導にも関わることができます。また、他の診療科、医療スタッフとも相談しやすい環境にあります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医2名、日本消化器病学会専門医1名、日本循環器学会循環器専門医2名、日本消化器内視鏡学会専門医1名、日本肝臓学会専門医1名ほか
外来・入院 患者数	外来患者1500名(1ヶ月平均) 入院患者70名(1日平均) 救急車搬送 約 1500 台/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳(疾患群項目表)</u> にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設

天理よろず相談所病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が40名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022年度実績 医療安全・感染対策 E-learning開催)します。 ・GPC を定期的開催(2023年度実績5回)します。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2019年度実績 10演題)をしています。
指導責任者	田口善夫 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の1つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろず相談所病院は昭和51年よりレジデント制度を開始し、昭和53年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性

	期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 40 名 日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本アレルギー学会専門医(内科)2 名 日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 2 名、ほか
外来・入院 患者数	外来:約 1,800 名(1 日平均) 入院:約 500 名(1 日平均延)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設(胸部) ステントグラフト実施施設(腹部) 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医制度認定施設 など

公益財団法人慈愛会今村総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・今村総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
-------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント委員会が今村総合病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・企業主導型保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 10 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者, プログラム管理者(ともに総合内科専門医かつ指導医); 専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2023 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2023 年度実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績 1 回: 受講者 5 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2023 年度実績 3 演題)をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>西垂水 和隆</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>総合内科では屋根瓦の中心となって救急・病棟・集中治療・感染症・膠原病診療について研修、指導を行う。その他血液内科・脳神経内科・消化器科・循環器科などの専門性の高い診療科での研修も可能。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 12,905 名(1ヶ月平均) 入院患者 10,633 名(1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設</p>

	日本神経学会専門医制度教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設(連携施設) 日本臨床神経生理学会認定施設準教育施設(筋電図・神経伝導分野) 日本臨床細胞学会認定施設 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など
--	---

社会医療法人同心会 古賀総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 8 名在籍しています(下記)。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023 年度実績 12 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催(2024 年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2023 年度 0 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、宮崎東諸県医療圏の救急医療合同カンファレンス、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器症例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・ 特別連携施設(美郷町国民健康保険西郷病院)の専門研修では、電話や週 1 回の古賀総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます(上記)。 ・ 専門研修に必要な剖検(2023 年度 0 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表をしています。(2023 年度実績 4 演題)
指導責任者	楠元 寿典 【内科専門医へのメッセージ】 当院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモディティーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。

	市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式(脾臓長軸×短軸×0.9)」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 理念のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っています。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,670 名(1ヶ月平均)入院患者 553 名(1ヶ月平均延数)(2023 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設、他

医療法人幸善会 前田病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修制度協力型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 前田病院専攻医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内託児所があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> 指導医が 3 名在籍しています(下記)。 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的開催(2015 年実績 医療倫理 1 回、医療安全 6 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 CPC を定期的開催(2015 年実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、12 分野において、定常的に専門研修が可能

【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2016 年 5 月 1 演題)をしています。
指導責任者	前田篤宏 【内科専攻医へのメッセージ】 長時間透析、オーバーナイト透析、透析歴 30 年以上の症例、保存期腎不全の管理(併設するトレーニングジムでの運動療法と、管理栄養士による栄養指導)、I 型・II 型糖尿病の管理(全てのCKDステージを含む)など、当院でしか習得できない内容はたくさんあると思います。また漢方の指導・専門医も多数おり、漢方診療も勉強できます。
指導医数 (常勤医)	日本透析医学会指導医 1 名 日本透析医学会透析専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本内科学会総合内科認定内科医 1 名 日本臨床腎移植学会腎移植認定医 1 名 日本東洋医学会漢方専門医 1 名 日本東洋医学会漢方認定医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 5,304 名(1ヶ月平均) 入院患者 3,480 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	シャント手術、PTA、CPAP管理、上部・下部内視鏡検査、エコー検査(頸部血管・心・腹部)、長時間透析管理、オーバーナイト透析管理、運動療法・栄養指導を用いた糖尿病管理を経験することができます。証を理解した上での漢方診療の習得も可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。地域の基幹病院より脳梗塞後のリハビリ、骨折後のリハビリ等の紹介も多数ありそれらの疾患の入院管理も経験可能です。
学会認定施設 (内科系)	日本透析医学会 専門医制度認定施設 日本東洋医学会 専門医制度指定研修施設 日本内科学会認定教育施設 教育関連病院(予定)

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務局総務課)があります。 ・内部統制・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 14 名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスは、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施を見送っていましたが、2024年から再開する所存です。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、感染症、アレルギー

【整備基準 24】 3)診療経験の環境	ギーおよび代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・症例報告を論文にまとめることを始めとして、臨床データの収集解析を行い、在籍中に原著論文を仕上げられるよう指導します。(1年～4年次) ・総会発表を年1回以上行うことを指導します。(3～4年次) ・研究会、学会活動、論文作成には可能な限り経済的・時間的援助を行います。
指導責任者	萩原恵里 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器呼吸器病センターは循環器および呼吸器疾患の専門病院であり、連携施設として循環器、呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては、結核を含む感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、担当当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12名、日本内科学会総合内科専門医 18名 日本循環器学会循環器専門医 6名、日本呼吸器学会専門医 14名、 日本糖尿病学会専門医 2名、日本アレルギー学会専門医(内科)2名、 日本感染症学会専門医 2名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,647名(1ヶ月平均) 入院患者 3,934名(1ヶ月平均) *2023年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳(疾患群項目表)にある9領域、39疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会連携施設 日本呼吸器学会基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

市立大町総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境(有線LAN, Wi-Fi)があります。 ・市立大町総合病院専攻医として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として衛生委員会があります。 衛生委員会には産業医および保健師が委員となっています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。 ・敷地内に院内託児所, 病児保育所があり, 利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専攻医の環境	・指導医は2名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて, 基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しています。 (2023年実績 医療倫理 1回, 医療安全 2回, 感染対策 2回) ・ CPC を定期的に開催(2023年実績 1回)しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全て分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、必要に応じて適宜開催しています。 ・ 日本内科学会地方会での学会発表を行っています。
<p>指導責任者</p>	<p>新津 義文 【内科専攻医へのメッセージ】 当院のある大町市では高齢化が進んでおり、複数の疾患をもつ診断の難しい患者が少なくありません。そのため、他科の医師と密に相談をし、一人ひとりの患者と向き合って治療をおこないます。 他地域より高齢化が進んでいる大町市で研修を希望する方、指導いたします。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本感染症学会専門医 2 名、日本東洋医学会専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 2,797 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 3,267 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設(内科系)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会認定医制度教育関連病院 ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設(関連施設) ・ 日本消化器病学会関連施設 ・ 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 ・ 日本東洋医学会指定研修施設(教育関連施設) ・ 日本臨床細胞学会認定施設 ・ 日本脳卒中学会一次脳卒中センター ・ 大町病院信州大学総合診療プログラム ・ 北アルプス家庭医療プログラム など

国立循環器病研究センター

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室担当)があります。 ・ ハラスメント委員会が人事課に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 77 名在籍しています(下記) ・ 内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設

2)専攻医の環境	<p>に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022年度実績各2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し(2022年度実績18回)、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(病病、病診連携カンファレンス2022年度実績2回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち5分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。(2022年度26体)
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2022年度実績2演題)をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます(2022年度150演題)。
指導責任者	<p>野口暉夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指しています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医77名、日本内科学会総合内科専門医42名、 日本循環器学会循環器専門医39名、日本糖尿病学会専門医12名、 日本内分泌学会専門医6名、日本腎臓病学会専門医4名、 日本神経学会神経内科専門医21名、日本老年医学会専門医2名、日本感染症学会専門医1名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、日本救急医学会救急科専門医1名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者161,178名 入院患者163,437名(2022年度実績)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある5領域、24疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設(内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会専門医研修施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、 日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本超音波医学会研修施設、日本透析医学会研修施設、日本脳卒中学会研修施設、日本高血圧学会研修施設、など</p>

倉敷中央病院

1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事部)があります。 ・ハラスメント委員会が当院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が77名在籍しています(専攻医マニュアルに明記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的開催(年間開催回数:医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催(年間実績10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野の、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2022年度実績6演題)をしています。又、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります。(2022年度実績139演題)
指導責任者	<p>石田 直</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>倉敷中央病院は、岡山県南西部の医療の中核として機能しており、地域の救急医療を支えながら、又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です。</p> <p>内科の分野でも入院患者の25%は救命救急センターからの入院であり、又内科領域13分野には多くの専門医がhigh volume centerとして高度の医療を行っています。</p> <p>内科専門医制度の発足にあたり、連携病院並びに特別連携病院両者との連携による、地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ、地域医療の充実に向けての様々な活動を行います。</p> <p>初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います。又内科系救急医療の修練を行うと同時に、総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います。加えて、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供しながら、医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医77名、日本内科学会総合内科専門医47名、日本消化器病学会消化器専門医13名、日本循環器学会循環器専門医15名、日本内分泌学会専門医5名、日本糖尿病学会専門医11名、日本腎臓病学会専門医8名、日本呼吸器学会呼吸器専門医9名、日本血液学会血液専門医9名、日本神経学会神経内科専門医8名、日本アレルギー学会専門医(内科)2名、日本リウマチ学会専門医2名、日本感染症学会専門医3名、日本救急医学会専門医4名、日本肝臓学会専門医7名、日本老年医学会専門医4名、臨床腫瘍学会4名、消化器内視鏡学会専門医16名、ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数270,800人/年(2022年度実績) 入院患者数13,255人/年(2022年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など</p>
-------------------------	---

愛媛県立中央病院

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス(ハラスメント含む)に適切に対処する部署(総務医事課担当)があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 35 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2022 年度 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、年に 1 回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
<p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。

	・専門研修に必要な剖検(2022年度実績10体、2021年度実績11体、2020年度11体)を行っています。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的受託研究審査会を開催(2022年度実績9回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2022年度実績7演題)をしています。
指導責任者	副院長(消化器内科) 二宮 朋之 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本消化器病学会消化器専門医数 12、日本循環器学会循環器専門医数 8、日本内分泌学会専門医数 2、日本糖尿病学会専門医数 5、日本腎臓病学会専門医数 2、日本呼吸器学会呼吸器専門医数 6、日本血液学会血液専門医数 7、日本神経学会神経内科学専門医数 5、日本アレルギー学会専門医(内科)数 2、日本リウマチ学会専門医数 0、日本肝臓学会専門医 7、臨床腫瘍学会専門医 2、消化器内視鏡学会専門医 12、日本感染症学会専門医数 2、日本老年学会専門医数 3、ほか
外来・入院患者数	外来患者 22,338名(1ヶ月平均) 入院患者 16,747名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本老年医学会認定施設、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本呼吸器学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、 日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、 日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、 日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、 日本感染症学会連携研修施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、 非血縁者間骨髄移植認定施設、非血縁者間末梢血幹細胞採取(移植)認定施設、 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本不整脈心電学会専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、 日本プライマリ・ケア連合学会認定 総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設、 日本東洋医学会研修施設、ステントグラフト実施認定施設など

近森病院

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する環境(健康管理センター・メンタルヘルスケアサポート連絡会)が整っている。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・敷地内に院内保育所があり、24 時間 365 日利用可能である。
<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 29 名在籍している。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る体制が整っている。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
<p>3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
<p>4) 学術活動の環境</p>	<p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。 (2023 年実績 3 演題)</p>
<p>指導責任者</p>	<p>指導責任者: 細田勇人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科は約 30 年にわたり大内科制をとっており、救急病院としての救急医療の中核を担っている。そのため、高知県全域から様々な疾患を持った救急患者・重症患者が当院に紹介され救急搬送されており、内科医としての Generality が求められるため、専門性に偏ることなくあらゆる内科疾患の主治医として入院患者に対応している。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>29 名 日本内科学会総合内科専門医 27 名 日本消化器病学会指導医 4 名/専門医 13 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名/専門医 12 名 日本循環器学会専門医 18 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 5 名/認定医 9 名 日本心臓病学会心臓病上級臨床医FJCC 3 名 日本動脈硬化学会指導医 2 名 日本不整脈心電学会不整脈専門医 2 名 日本高血圧学会指導医 2 名/専門医 1 名 日本呼吸器学会指導医 2 名/専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1 名/専門医 1 名 日本血液学会指導医 2 名/専門医 2 名 日本内分泌学会指導医 1 名/専門医 2 名 日本糖尿病学会研修指導医 1 名/専門医 3 名 日本腎臓学会指導医 1 名/専門医 2 名 日本透析医学会指導医 1 名/専門医 2 名 日本肝臓学会指導医 2 名/専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名/専門医 1 名 日本老年医学会指導医 4 名/専門医 7 名 日本神経学会指導医 4 名/専門医 5 名 日本脳卒中学会指導医 4 名/専門医 7 名 日本リウマチ学会指導医 2 名/専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名 日本化学療法学会抗微生物療法指導医 1 名</p>

	JMECC ディレクター2名/インストラクター3名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 10,440名(2023年度) 入院患者 11,56名(2023年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	救命救急センター 地域医療支援病院 災害拠点病院 基幹型・協力型臨床研修病院 卒後臨床研修評価機構認定 日本医療機能評価機構 機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1/付加機能(救急医療機能 Ver.2.0) 日本内科学会 教育病院 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本神経学会 教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア 日本脳卒中学会 研修教育施設 日本老年医学会 認定施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本高血圧学会 研修施設 I 日本動脈硬化学会 教育病院 超音波医学会 超音波専門医研修施設 日本心エコー図学会 認定心エコー図専門医制度研修関連施設 日本不整脈心電学会 不整脈専門医研修施設 MRI対応植込み型デバイス患者のMRI検査の施設基準 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術 専門施設 日本心血管インターベンション治療学会 潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本リウマチ学会教育施設 日本肝臓学会 関連施設 日本腎臓学会 認定教育施設 日本透析医学会 教育関連施設 日本感染症学会 研修施設 など

中部徳洲会病院

1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・中部徳洲会病院常勤医師として労務環境が保障されています。
-----------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当および、外部委託機関)があります。 ・ハラスメント委員会が中部徳洲会病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は4名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床研修室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2023年度実績12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う(2025年度予定)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行う(2023年度実績11回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(中部合同カンファレンス、年一回に「ゆんたく会」)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター(2025年度予定)が対応します。 ・特別連携施設(徳之島徳洲会病院、沖永良部徳洲会病院)の専門研修では、電話や週1回の中部徳洲会病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023年度実績6体、2022年度4体)を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行う(2023年度実績12回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に行う(2023年度実績12回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計3演題以上の学会発表(2025年度実績3演題)を発表予定しています。
指導責任者	<p>轟 純平</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>中部徳洲会病院は、沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり、沖縄医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医4名、日本内科学会総合内科専門医6名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本循環器学会循環器専門医5名、日本血液学会血液専門医1名、日本リウマチ学会指導医1名、日本リウマチ学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医10名、ほか
外来・入院患者数	外来患者2,535名(1ヶ月平均) 入院患者2,120名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育支援(関連)病院認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本消化器病学会関連施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 消化器内視鏡学会指導連携認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臨床細胞学会教育研修認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設
-----------------	---

沖縄県立中部病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 35 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者: 喜舎場朝雄(医療部長)、プログラム管理者: 宮城唯良(循環器内科副部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医)、内科研修委員会委員長: 末田善彦)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と初期研修、他科のプログラムを含む全体研修全体を管理するハワイ大学中部病院卒後臨床研修プログラムの共同でプログラム運営します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2021 年度実績院内開催 1 回、2022 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策1回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催(2021 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(別紙参照)を定期的開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2022 年度開催実績 1 回: 受講者 6 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話やカンファレンスの配信、インターネットなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記) ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 56 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2020 年度実績 8 体、2021 年度 8 体、2022 年度実績 1 体)を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・研究倫理審査委員会を設置し、定期的開催(2022 年度実績 2 回※迅速審査 2022 年度実

	<p>績 78 件)し、臨床研究内容の審査などを行っています。</p> <p>・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催(2022 年度実績 12 回)しています。</p> <p>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 17 演題、その他内科系学会にて計 85 演題(研修医が筆頭演者または筆頭著者は計 33 件)発表をしています。</p>
指導責任者	<p>喜舎場 朝雄</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>沖縄県立中部病院は、沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり、歴史的に、連携施設である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院と深く連携し、救急、総合内科的研修を中心とした研修を行い、多くの総合内科専門医を輩出してきました(沖縄県の総合内科専門医の約 1/3 弱が当院での初期、または後期研修経験者です)。「Specialist である前に良き generalist であれ」を合言葉に、内科専攻医を育てます。幅広く内科全般を学びたい研修医に適した病院です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 35 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか</p>
外来・入院患者数 [2022 年度]	<p>外来患者 6,172 名(1ヶ月平均)</p> <p>入院患者 335 名(1ヶ月平均)内科のみの人数</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本救急医学会指導医指定施設</p> <p>日本救急医学会専門医指定施設</p> <p>日本集中治療医学会専門医研修施設</p> <p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム</p> <p>日本感染症学会研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p> <p>日本循環器学会循環器専門医研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本脈管学会認定研修指定施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関</p> <p>日本 IVR 学会専門医修練施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設</p> <p>日本認知症学会専門医制度教育施設</p> <p>日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設</p> <p>日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p> <p>日本病理学会病理専門医制度研修認定施設(B)</p> <p>日本臨床細胞学会教育研修施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士実地修練認定教育施設</p> <p>日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設</p> <p>日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設</p>

	卒後臨床研修評価機構認定 など
--	-----------------

社会医療法人宏潤会 大同病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・社会医療法人宏潤会常勤医師または非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に隣接し院内保育所(「大同保育所おひさま」)があり、入所対象は職員(パートタイム職員を含む)の子で、延長保育、夜間保育、病児・病後児保育にも利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 23 名在籍しています。 ・飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会委員(副院長、腎臓内科部長, 総合内科専門医かつ指導医)は、大同病院院内に設置されている飯塚病院内科専門研修委員会委員長を兼務しており、基幹施設、連携施設との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後研修支援センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策に関する認定共通講習を開催し、専攻医に年度 2 回の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回) ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(開催実績: 2023 年度 9 回) ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(基幹施設開催実績: 例年 22 回前後開催 病診連携の会, 消防合同カンファレンス, 感染症症例検討会, 専攻医セミナー症例検討 など) ・全内科専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(基本毎年度 1 回開催 開催実績: 2015~2023 年度受講者合計 49 名) ・日本専門医機構によるサイトビジット(施設実地調査)に大同病院卒後臨床研修支援センターが対応します。 ・大同病院の外来診療部門であるだいでクリニックでは、大同病院での研修時の外来研修を行い、外来から入院への一連の診療の流れに沿った研修が可能となるよう研修指導を行います。 ・志望する Subspecialty にかかわらず、内科各科のローテーション研修を可能としています。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(最少でも 56 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な内科剖検(2021 年度実績 18 体, 2022 年度 21 体, 2023 年度 15 体)があります。
4) 学術活動の環境	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修医や医学部学生の指導には、専攻医必須の役割として関わります。 ・後輩専攻医の指導機会があります。 ・メディカルスタッフへの指導機会があります。

	<p>学術活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科系の学術集会や企画(日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、および内科系サブスペシャリティ学会の学術講演会・講習会等)に年2回以上参加するための参加費補助があります。 ・筆頭演者または筆頭著者として、3年間で2件以上の学会発表あるいは論文発表を行うため、内科系の学術集会や企画への参加費補助があります。 ・症例報告作成や基礎研究を行うために必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催(2023年度実績12回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2023年度実績12回)しています。
指導責任者	<p>志水 英明</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>大同病院は、名古屋市南部から知多半島北部医療圏の中心的な急性期病院です。中規模病院であるが故に、内科系の各領域間に垣根はなく、横断的な研修が可能です。また内科13領域のうち、12領域で専門医が存在し幅広い研修が可能です。</p> <p>院内では各科のカンファレンスや各種セミナー・勉強会を頻回に開催しており、さらに多職種合同カンファレンスなども実施しています。大同病院における研修では、各科ローテーション中にそのローテーション科以外の科や総合内科の患者を同時に主担当する事が可能です。また週に1日「サブスペ研修日」を設ける事が可能で、generalな研修を行いながらも subspecialな研修を並行して行う事ができます。</p> <p>大同病院での研修では、多様な形態の内科診療を通して必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門研修を行います。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 23名</p> <p>総合内科専門医 15名</p> <p>消化器病専門医 6名</p> <p>消化器内視鏡専門医 6名</p> <p>肝臓専門医 2名</p> <p>日本胆道学会指導医 1名</p> <p>日本膵臓学会指導医 1名</p> <p>循環器専門医 6名</p> <p>内分泌代謝科専門医 2名</p> <p>糖尿病専門医 2名</p> <p>腎臓専門医 5名</p> <p>呼吸器専門医 4名</p> <p>血液専門医 1名</p> <p>神経内科専門医 3名</p> <p>リウマチ専門医 5名</p> <p>日本アレルギー学会専門医 1名</p> <p>がん薬物療法専門医 2名</p> <p>内科専門医 6名</p>
外来・入院患者数 [2023年度]	<p>内科系外来患者 2,547名/月、(外来部門だいでクリニック 7,154名/月)、</p> <p>内科系入院患者実数 433名/月</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な症例を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本神経学会専門医制度教育施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p>

	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本胆道学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 など
--	--

松山赤十字病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・松山赤十字病院常勤医師として勤務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 28 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し教育研修推進室と連携して研修の質を担保する。 <p>以下のカンファレンス、講習会等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 医療倫理・医療安全・感染対策等の講習会 ② 研修施設群合同カンファレンス ③ CPC ④ 地域参加型のカンファレンス ⑤ JMECC <p>日本専門医機構による施設実地調査には教育研修推進室が対応する。 特別連携施設研修では、電話や面談、カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。</p>
3) 診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野の少なくとも 12 分野で常時専門研修が可能な症例数を診療している。</p> <p>70 疾患群のうち少なくとも 58 以上の疾患群について研修できる。</p> <p>専門研修に必要な剖検数を確保している。</p>
4) 学術活動の環境	<p>臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。</p> <p>医療倫理委員会を設置し、定期的を開催している。</p> <p>治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催している。</p> <p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の発表をしている。</p>
指導責任者	<p>藤崎智明</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>松山赤十字病院は、松山医療圏の中心的地域医療支援病院であり、当プログラムでの内</p>

	科専門研修で、将来にわたり愛媛の地域医療を支える内科専門医育成を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 32 名, 日本内科学会指導医 28 名, 日本消化器病学会消化器専門医 8 名, 日本循環器学会循環器専門医 6 名, 日本糖尿病学会専門医 3 名, 日本腎臓病学会専門医 6 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名, 日本血液学会血液専門医 6 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名, 日本感染症学会専門医 3 名, 日本老年医学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 6 名 日本高血圧学会専門医 1 名, 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 8 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名, 日本認知症学会認定認知症専門医 1 名, ほか
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者数 155,047 人/年 入院患者数 7,260 人/年(令和 5 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本救急医学会専門研修連携施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

済生会熊本病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(職員健康管理室)があります。 ・ ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・ 専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育園があります。
-----------	---

2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 44 名在籍しています。 ・当院にて研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と人材開発室を設置します。また、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:胸部 X 線を読み解く会、熊本消化器カンファレンス、熊本消化器画像診断研究会、済生会熊本病院緩和ケア研修会等)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2023 年度開催実績 2 回:受講者 10 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に人材開発室が対応します。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 9 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 50 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2021 年度:5 体、2022 年度:4 体、2023 年度:1 体)を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	<p>一門 和哉</p> <p>◆研修の特徴</p> <p>当院は、熊本県熊本医療圏にあり、救命救急センターを有する急性期病院であり、国際病院機能評価 JCI を取得しています。</p> <p>重症・救急患者はもちろん、コモンディージーズから複数の病態を持つ患者の診療など幅広く経験を積むことができます。併せて、様々なキャリアや資格を有する指導医が多数在籍しているため、サブスペシャリティ領域まで踏み込んだ専門的な知識・技術も修得することができます。</p> <p>また、地域における急性期病院であるため、それぞれの役割を担う施設との病病連携や病診連携も多数経験します。</p> <p>当院では、医師のみならず、各職種が専門性を発揮しながら診療にあたります。内科系・外科系問わず各診療科の垣根も低く、複数の診療科、多職種にて行われるチーム医療は自慢できる特徴の一つです。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 44 名、日本消化器病学会消化器専門医 12 名、日本消化器内視鏡学会 11 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 7 名、日本感染症学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本臨床腫瘍学会専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数 [2023 年度]	総外来患者数(実数): 140,773 名 総入院患者数(実数): 133,125 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 12 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設(CVIT) 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本腹膜透析医学会認定 CAPD 教育研修機関 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(PSC) 日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(PSC)コア施設 日本感染症学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設 など</p>
-------------------------	--

宮崎市郡医師会病院

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・宮崎市郡医師会病院医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署(人事課職員担当)があります。 ・ハラスメント委員会が宮崎市郡医師会に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 8 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(宮崎心臓病研究会、地域連携で心不全を考える会、心エコー研究会、宮崎循環器市民公開講座 2020 年度実績 9 回)を定期

	的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(開催実績無し)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会及び臨床研修センターが対応します。
3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 4 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2022 年度 3 例、2023 年度 10 例)を行っています。
4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催(2021 年度実績 12 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2021 年度実績 12 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2021 年度実績 4 演題)をしています。
指導責任者	宮崎市郡医師会病院 副院長 柴田 剛徳 宮崎市郡医師会病院は宮崎県宮崎東諸県医療圏における急性期基幹病院として近隣の病院、医院、救急隊と密に連携をとり、宮崎市民から求められる最善の医療を心がけています。また指導医のもと主担当医として、患者一人一人に対して入院から退院までの適切な診療だけでなく、患者の社会的背景をも包括する全人的医療と患者に思いやりを持った医療を目指し、実践しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 16 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本不整脈心電学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本高血圧専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本集中治療医学会専門医 3 名、米国集中治療専門医 1 名、米国麻酔科専門医 1 名 など
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 2,024 名(1ヶ月平均) 入院患者 604 名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会教育病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本高血圧専門医研修認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 など

明石医療センター

1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 明石医療センター常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備され
----------	---

	<p>ています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 (申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します)
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会指導医は 20 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(年間 4 回程度)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(感染防止対策地域カンファレンス 2 回、地域医療連携の会 1 回等)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。</p> <p>レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。</p> <p>症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。</p>
指導責任者	<p>中島 隆弘</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>明石医療センターは「患者さんを中心に、その期待に応える医療を行い、地域との連携を密にして、社会に貢献します」という理念のもと、明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っています。専門内科(呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科)および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です。2019 年度から救急科専門医が赴任し、コモンディーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました。外科系の診療科は、心臓血管外科、外科、呼吸器外科、整形外科、産婦人科が活発に診療しており垣根の低い連携が可能です。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、学会発表・論文作成の指導体制も整っており、毎年研修医・専攻医の英語論文がアクセプトされています。症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、 日本循環器学会専門医 7 名、日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本消化器病学会専門医 10 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌代謝科専門医 2 名 ほか</p>
外来・入院患者数 [2023 年度]	<p>外来患者 6,886 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 6,862 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)</p>
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本透析医学会専門医教育関連施設、社団法人日本感染症学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、一般社団法人日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設(呼吸器内科)、など
-----------------	--

一般財団法人大原記念財団 大原総合病院

1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN, Wi-Fi)があります。 ・ 財団附属の清水病院(精神科)でメンタルストレスへ適切に対処しており、またハラスメント窓口があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 隣接する施設に財団施設である保育所があり、利用可能です。
2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が在籍しています。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2023 年度実績 倫理委員会 1 回、医療安全委員会月1回、感染管理委員会月1回)し、専攻医が参加できます。 ・ CPC を定期的に行う(2023 年実績 4 回)し、専攻医も参加ができます。
3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科(消化器内科・腎臓内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内分泌内科・脳神経内科)で、専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に行います。 ・ 国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	<p>齋藤 修一</p> <p>【メッセージ】</p> <p>当院は東北新幹線の福島駅から近く、福島県庁や福島県警など県内の主要な公的施設の隣りに位置する病院です。2018 年に免震機能を有した新病院になり 6 年目を迎えました。明るく楽しい雰囲気の中で成長できる環境が揃っております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 10 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名</p> <p>日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、</p> <p>日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか</p>
外来・入院患者数 [2023 年度]	<p>外来患者 855 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)2023 年度実績</p> <p>入院患者 450 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)2023 年度実績</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 特別連携施設 日本神経学会 准教育施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 関連認定施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修関連施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 教育関連施設 日本臨床細胞学会 認定施設 など</p>
-------------------------	---

島根県立中央病院

<p>1) 専攻医の環境</p>	<p>専攻医の環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 島根県立中央病院の医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルヘルスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。 <p>専門研修プログラムの環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会)との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育・研修支援センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・ 地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、地域救急医療合同カンファレンス、出雲市内科医会循環器研究会、出雲市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育・研修支援センターが対応します。 ・ 特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の島根県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>専門研修プログラムの環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会)との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育・研修支援センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・地域参加型のカンファレンス(内科体験学習集談会、地域救急医療合同カンファレンス、出雲市内科医会循環器研究会、出雲市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育・研修支援センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の島根県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、インターネットなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	小田強(プログラム責任者 循環器科 副院長)、 井本宏治(島根県立中央病院 循環器科 診療科部長)、藤代浩史(島根県立中央病院 消化器科 診療科部長)、他
指導医数 (常勤医)	J-osler 指導医一覧に登録されている指導医 22 名 (R6..1.17 現在)
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 4,067 名(1ヶ月平均)内科のみ 11,850 名 全体 入院患者 367 名(1ヶ月平均実数)内科のみ 1,053 名 全体
経験できる疾患群	<p>1) 専門知識【整備基準 4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照] 専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。 「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。</p> <p>2) 専門技能【整備基準 5】[「技術・技能評価手帳」参照] 内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力が加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。</p>
経験できる技術・技能	<p>島根県立中央病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。</p> <p>島根県立中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験します。</p>
経験できる地域医療・診療連携	島根県立中央病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験します。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育施設(教育病院) 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設(内分泌代謝科) 日本腎臓学会認定医制度研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など
-----------------	--

一般社団法人巨樹の会新武雄病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN、Wi-Fi)があります。 ・ 新武雄病院専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催(2023 年実績 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち限られた分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	藤田 博正 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 (常勤医)	日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本救急医学会専門医 1 名
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 11,999 名 入院患者 3,516 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域の中で限られた症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本脳神経外科学会連携施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本整形外科学会認定整形外科専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働施設 日本脳卒中学会 1次脳卒中センター認定施設 日本消化器外科学会認定関連施設 日本麻酔科学会麻酔科認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本医学放射線学会画像診断管理認定施設 日本呼吸器学会認定関連施設 日本脊髄外科学会認定訓練施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など

霧島市立医師会医療センター

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境(有線 LAN, Wi-Fi)があります。 ・ 霧島市立医師会医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として労働安全衛生委員会があります。産業医および心理師が対応しています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に 24 時間対応院内こども園、院内学童保育があり、病児保育も含め利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 6 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年実績 教育倫理 2 回、医療安全 2 回、感染管理 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を要時開催(2023 年実績 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMCC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は霧島市立医師会医療センターの担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に医療秘書課が対応します。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 45 以上の疾患群)について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・ 治験事務局を設置し、必要時に治験審査委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	杉田 浩

	<p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院の臨床研修では県内トップクラスの外科系内科系指導医が揃っており、特に総合診療領域を生で実践してきた自治医科大学出身の常勤医師が在籍し研修指導の中心的役割を果たしています。</p> <p>病床数 254 床、常勤医師 54 名、初期臨床研修医 8 名の中規模病院で、いつでも気軽に他科に相談でき、看護師を始めとしたコメディカルとの連携もよく、救急車約 3,000 件/年、内視鏡検査約 6,000 件/年、手術約 1,400 件/年などの急性期医療に全員で対応しています。</p> <p>その他、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅医療支援診療所と連携し、終末期の入院・在宅医療、急性期の回復期医療、慢性期医療など幅広く学べる環境にあり医局の雰囲気は大変賑やかでアットホームです。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本内科学会認定医 4 名、 日本小児科学会専門医 3 名、日本循環器学会認定循環器専門医 3 名、 日本医師会認定産業医 3 名、日本内科学会認定内科専門医 2 名、 日本内科学会認定内科医 2 名、日本消化器病学会専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医・認定医 2 名、 ICD2 名、ほか
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 2,942 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 3,519 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら 幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などに 加え緩和ケアも経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>第二種感染症指定医療機関 肝疾患診療連携専門医療機関 エイズ治療協力病院 先進医療「内視鏡的大腸粘膜下層剥離術」届出医療機関 消化器がん検診精密検査医療機関 大腸がん検診精密検査実施協力医療機関 小児慢性疾患指定医療機関 特定疾患医療承認医療機関 結核指定医療機関 日本内科学会教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修関連施設 日本臨床栄養代謝学会NST稼働施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 総合診療専門研修プログラム認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 以上</p>

社会医療法人かりゆし会ハートライフ病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(衛生委員会および産業医)があります。 ・ハラスメント委員会(セクシャルハラスメントパワーハラスメント等)が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女性専用の更衣室(休憩室)、シャワー室、当直
-----------	--

	<p>室が整備されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣に法人運営の保育施設があります。また、隣接する同法人クリニック内にある院内保育所で病児保育も可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 14 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全(全体)2023 年度2回開催(各部署別にて複数回開催)、感染対策(全体)2023 年度1回開催(各部署別にて複数回開催)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績:3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2023 年度実績:救急症例検討会 3 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設の専門研修では、症例指導医とハートライフ病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中はハートライフ病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門医の常勤がない内分泌、代謝、腎臓、神経、膠原病、感染症は救急病院であることから少なからず経験することが出来ます。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績:7 件)を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会学術総会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2023 年度実績:3 回)をしています。また、専攻医が国内・国外の学会に参加、発表する機会があります。
指導責任者	<p>秋元 芳典</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>ハートライフ病院は 308 床の急性期病院であり、幅広い内科疾患を経験することができます。中でも消化器、循環器疾患については症例数、指導医ともに充実しています。消化器領域では肝臓領域の患者数も多く、肝がんの症例に対するラジオ波焼灼療法などは沖縄でも多くの症例を行っています。循環器では ECMO を含め、救急と共に急性期症例の経験をすることができます。また、今後は総合診療専門研修プログラムを立ち上げるため、総合内科を中心に内科を幅広く学ぶ教育にも力を入れています。内科の基礎から応用まで研修できるシステムで先生方を迎えたいと考えています。</p>
指導医数(常勤医)	<p>日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本血液学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本消化器病学会専門医 7 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 2,905 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)</p>

[2023 年度]	入院患者 3,515 名(内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	2 次救急指定病院としての急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、地域医療支援病院としての病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器学会関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病院総合診療医学会認定施設、など

中頭病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。(健康サポートセンター) ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に保育所があり、利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医 20 名在籍しています(下記) ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(副院長)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2022 年実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023 年度実績 1 回) ・CPC を定期的に開催(2023 年度実績 7 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(基幹施設:・NC(中頭病院と地域のクリニック)連携セミナー、消防合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育開発研修センターが対応します。 ・特別連携施設での専門研修では、中頭病院担当指導医と連携をとり、定期的な面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。

	<p>・治験管理室を設置し、定期的に開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を目標にしています。</p>
指導責任者	<p>新里 敬 【内科専攻医へのメッセージ】 中頭病院は、中部医療圏の中心的な急性期病院であり、沖縄県全医療圏、県外(東京都、茨城県、大阪府、京都府、福岡県)の 15 医療機関と連携施設、特別連携施設を組んでいます。特徴としては、都市部、その近郊、へき地、離島を網羅しており、地域の実情に合わせた多様な研修を積むことが可能です。 主担当医として、外来、入院から退院まで、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を学び経験し、専門内科医への成長に繋がる研修ができるものと確信しております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>内科学会指導医 20 名、総合内科専門医 19 名、内科専門医 3 名、 呼吸器専門医 5 名、循環器専門医 3 名、糖尿病学会専門医 2 名 消化器専門医 9 名、消化器内視鏡専門医 9 名 腎臓病学会専門医 6 名、透析専門医 3 名、血液専門医 4 名、 神経内科専門医 1 名、感染症学会専門医 2 名、肝臓専門医 3 名 集中治療専門医 2 名、救急科専門医 7 名、他</p>
外来・入院患者数 [2022 年度]	<p>外来患者数 5,611 名(内科延べ患者数:1ヶ月平均) 入院患者数 5,263 名(内科延べ患者数:1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会内科専門研修基幹施設、日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本腎臓学会認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設、日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設 日本高血圧学会高血圧研修施設、日本感染症学会研修施設 日本透析医学会認定施設、救急科専門研修連携施設 日本血液学会認定専門研修認定施設、日本集中治療医学会専門研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設、など</p>

南砺市民病院

1) 専攻医の環境	<p>当院は平成21年度より初期臨床研修制度における基幹型研修指定病院です。 ・医局内に共用のインターネット接続端末が用意されています。また、個人所有端末を無線接続してインターネットを利用することも可能です。 ・一定の研修期間を越える場合は常勤医師として労務環境が保障されます。 ・定期的に指導医と面談する機会を設け、必要に応じて基幹施設とメンタルストレスに対し適切な対処を図ります。 ・ハラスメント行為についての相談方法が定められており、衛生委員会が対応するよう取扱いが整備されています。 ・女性医師が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所を開設しており、利用することが可能です。</p>
2) 専門研修プログラムの環境	<p>・指導医が 2 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策に関する職員講習会を定期的で開催しており、専攻医が参加するために勤務に配慮を行っています。(開催実績:医療倫理 6 回・医療安全 2 回・感染対策 2 回) ・基幹施設が開催する研修施設群合同カンファレンスに参加するために、専攻医の勤務に配慮を行っています。 ・院内にて CRC が開催される際には専攻医にも参加を求めています。また当院での研修期間内に基幹施設にて CRC が開催される場合には参加できるよう勤務に配慮を行っています。 ・地域の抱える問題について話し合い取り組みを進める住民参加の「南砺の地域医療を守り育てる会」や医師会との情報共有と円滑な病診連携を図るため開催されている「南砺連携の会」へ参加するために、専攻医の勤務に配慮を行っています。
3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科 13 領域のうち総合内科・消化器・循環器・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・感染症・救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な臨床教育・研究センター室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	<p>院長 清水幸裕</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は南砺市の医療を担う中核病院であり、連携施設として肺炎、脳卒中、心不全などの common disease から専門的疾患(特に呼吸器、血液、肝疾患、糖尿病など)救急疾患まで広く深く、EBM に基づいた確かな医療を研修する事ができます。また当地は地域包括ケアを早くから実践しており、住民に寄りそった暖かな医療を提供できる医師、主治医として全人的な医療を実現、指導出来る専門医を育てるべく教育しています。また、法律や倫理の専門家を交えた倫理コンサルテーション委員会を立ちあげ、臨床的には解決の困難な、倫理的、社会的問題について、患者さんの自意思を尊重した、御本人にとってより良い答えが出せるように、多職種で検討が出来る機会を日常的に提供しています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2 名, 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名, 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本アレルギー学会専門医(内科) 1 名, 日本肝臓学会専門医 1 名, 日本血液学会専門医 1 名
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 3,000 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 160 名(内科系診療科のみ 1ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	稀な疾患を含めて研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域のうち、10 領域 51 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、これからの高齢化社会に対応できる、地域に根ざした医療、病診・病院連携を経験できます県内でも特に高齢化の進む地域における中核病院として、急性期の初期対応から回復期を経ての在宅復帰まで担うことができ、また近隣の療養型病院や同施設内にある訪問看護ステーションなどとの連携により進んだ地域医療にふれることで、全人的医療を経験することができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本腎臓学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本プライマリ・ケア連合学会研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設実地修練認定教育施設 地域包括医療・ケア認定施設 など

松波総合病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書とインターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・女性医師専攻医が安心して勤務出来るように、休憩室、当直室が完備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、24 時間利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 28 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療科部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医); 専門医研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹内施設において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2020 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催(2022 年度実績 13 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講(2022 年度関連施設にて開催実績 1 回: 受講者 2 名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記) ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記) ・専門研修に必要な剖検(2022 年度実績 25 体、2021 年度実績 32 体)を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書コーナー、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催(2022 年度実績 4 回)しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催(2022 年度実績 4 回)しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2022 年度実績 5 演題)をしています。
指導責任者	<p>田上 真</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>松波総合病院は、岐阜医療圏に位置して地域中核病院として急性期から慢性期までの基礎的、専門的医療を学べます。主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践出来る内科専門医になります。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 28 名</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 28 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 9 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 7 名</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名</p> <p>日本内分泌学会内分泌専門医 4 名</p> <p>日本糖尿病学会専門医 6 名、他</p>
外来・入院患者数 [2022 年度]	<p>外来患者 11,980 名(1ヶ月平均)</p> <p>入院患者 11,884 名(1ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけではなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会 認定医制度教育病院 日本循環器学会 認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本超音波学会 認定超音波専門医研修施設 日本消化器病学会 専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会 指導医施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌代謝学会 内分泌代謝科認定教育施設 日本高血圧学会 専門医認定施設 日本透析医学会 教育関連施設 日本感染症学会 連携研修施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定施設 日本臨床細胞学会 認定施設 日本病院総合医学会 認定施設 日本腎臓学会 認定施設 日本胆道学会認定指導医制度 指導施設認定 日本血液学会 専門研修認定施設 日本肥満症学会 肥満症専門医認定施設 日本膵臓学会 認定指導施設 など</p>
-------------------------	--

総合病院山口赤十字病院

<p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師(正規職員)としての待遇が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として臨床心理士、産業医、ハラスメント相談員等の対応があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、希望すれば育児短時間勤務を取得可能です。
<p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科指導医が 10 名在籍しており、その他指導医もいます。(下記) ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理するため、内科専門研修委員会を設置し、年 6 回程度(隔月)委員会を開催し、円滑な内科専門研修の実施を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2023 年実績 医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行う(2023 年実績 1 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に行うし、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査については、教育研修推進室が対応します。

3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 3 体)を行っています。
4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書研修室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 題以上の学会発表を行っています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があります。
指導責任者	<p>末兼 浩史</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科スタッフはチームワーク良く初期診療から専門領域まで皆協力分担して診療しており、少数精鋭で密度の濃い研修が可能です。分野間の垣根が低く、common disease から希少な難病・特定疾患まで豊富な症例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求される救急の場では一人で悩むことなくマンツーマンで上級医に相談し迅速な対応が可能です。</p> <p>総合病院として、すべての専門医師・医療スタッフの力を結集して、一人ひとりの患者さんの命に向き合い、他職種の医療スタッフにも恵まれ、職種を超えた NST, ICT などのチーム医療も盛んです。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 4 名、日本臓器学会肝臓専門医 1 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか</p>
外来・入院患者数 [2023 年度]	<p>内科系外来患者 221.4 名(1 日平均)</p> <p>内科系入院患者 83.3 名(1 日平均)</p>
経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> ・研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群のうち、領域においては、すべて幅広く経験することができます。 ・疾患群については、一部を除き多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<p>1)内科の受け持ちは臓器別ではなく内科全般の疾患を担当しますが、各診療科の専門医がいるため、適宜相談しながら主治医として診療可能です。そのため、技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p> <p>2)高齢化のすすむ圏域をカバーしていることから、患者の約 6 割は高齢者であるので、患者の急変に対応する機会は往々に発生します。そうした事例については終末期ケアも含めた経験を積むことができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>訪問看護ステーションを有し、小児から末期がん患者の訪問緩和ケアまで、広範な地域医療・診療連携を経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本専門医機構 内科領域基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本専門医機構 消化器内科領域基幹施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本専門医機構 膠原病・リウマチ内科領域基幹施設 日本糖尿病学会教育関連施設 I</p>

	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設、など
--	---

宇部興産中央病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・図書室、インターネット環境(有線 LAN,Wi-Fi)があります。 ・文献、症例検索のデータベース等の利用環境があります。 ・健康管理、相談窓口に健康管理室を設置しており、産業医および職員が常駐しています。また、メンタルストレスに対する相談窓口を設置しています。 ・女性医師のために更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。 ・敷地内に 24 時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育所を設置しています。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研修プログラム管理委員会において、専攻医ごとの研修手帳及び最良作品型ポートフォリオの内容確認と、今後の専門研修の進め方について検討します。 ・専門研修プログラム事務局を置き、定期的な会議を開催し、プログラムの日常的な実施・運営・改善を行います。 ・専門研修中には 1 回以上の筆頭演者として演台発表と必須とします。そのために、プログラム 1 年目にリサーチに関する基本知識の教授を指導医陣より行います。 ・医療倫理、医療安全、院内感染対策等の講習会を定期的で開催しています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、文献データベースを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。 ・指導医のもと、各内科系学会での学会発表に取り組める環境があります。
指導責任者	井本 忍 【内科専攻医へのメッセージ】 内科スタッフはチームワーク良く初期診療から専門領域まで皆協力分担して診療しており、少数精鋭で密度の濃い研修が可能です。分野間の垣根が低く、common disease から希少な難病・特定疾患まで豊富な症例の治療が専門医の指導下で経験可能で、的確な判断が要求される救急の場では一人で悩むことなくマンツーマンで上級医に相談し迅速な対応が可能です。 総合病院として、すべての専門医師・医療スタッフの力を結集して、一人ひとりの患者さんの命に向き合い、他職種の医療スタッフにも恵まれ、職種を超えた NST, ICT などのチーム医療も盛んです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名、日本消化器病学会指導医 3 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本血液学会専門医 1 名、 日本内科学会専門医 2 名、日本消化器病学会専門医 5 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本循環器学会専門医 2 名、 日本総合内科学会専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 ほか
経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> ・研修手帳にある症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	研修手帳に示されている「研修目標と研修の場」を活用し、専門医に必要な診察及び検査・治療手技を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域特有の健康課題に多職種と連携しながら取り組むことができます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、など
-----------------	--

徳之島徳洲会病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・徳之島徳洲会病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります。 ・ハラスメント委員会(職員暴言・暴力担当窓口)が口口ホスピタル内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である中部徳洲会病院で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型のカンファレンス(呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研究会)は基幹病院および沖縄県中部地区医師会が定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、神経、および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績 0 演題)を予定しています。
指導責任者	<p>田代 篤史</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>徳之島は、100 歳以上の高齢者の割合と合計特殊出生率が高く、出産数年間 200 件近い島内唯一の周期施設であり、24 時間 365 日在宅でのお看取りにも対応しています。徳洲会の理念「断らない救急」のもと、年間救急搬送 1100 台を超える救急医療とそれに続く急性期医療、年間約 40 件に及ぶ島外へり搬送にも対応し、徳之島における医療の最前線かつ最終拠点を担っています。外来では地域の内科病院として、内科一般および専門外来の充実に努め、健診・ドックの充実に努めています。</p> <p>医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在宅医療(自宅・施設)復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者(自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者)の入院治療・在宅復帰、に力を注いでいます。</p> <p>在宅医療は、医師4名による訪問診療と往診をおこなっています。病棟・外来・訪問看護・併設居宅介護支援事業所との連携のもとに実施しています。</p> <p>病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。</p>
指導医数	日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 1 名

(常勤医)	日本循環器学会循環器専門医 1名 ほか
外来・入院患者数 [2023年度]	外来患者 7,008名(1ヶ月平均) 入院患者 106名(1日平均)
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域の内科単科の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。 健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 急性期をすぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)。複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 嚥下機能評価(嚥下造影にもとづく)および口腔機能評価(歯科医師によります)による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み。 褥創についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整。 在宅へ復帰する患者については、地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント(介護)と、医療との連携について。 地域においては、連携している有料老人ホームにおける訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群(6医療機関)の在宅療養支援病院としての入院受入患者診療。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 地域における産業医・学校医としての役割。

沖縄県立八重山病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット環境が整っていて、UpToDate・Clinical Key が自由に使えます。 ・中部病院のハワイ大学図書室から無料で文献コピーの取り寄せができます。 ・おおむね年3-4回の学会出張旅費を支給します。 ・過重労働のチェックをしており、個別に対策しています。 ・女性医師専用の更衣室・シャワーが準備されています。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は7名在籍しています。 ・管理職以外は研修医を含めて全医師が同じ部屋に席があり相談・指導が受けやすい環境です。 ・毎朝の内科ミーティングで全内科医師が出席して症例検討・入院患者紹介をしています。 ・毎水曜日は内科・外科合同画像カンファレンスをしています。 ・精神科を含めて各科対診体制は整っており、迅速な対応・指導が受けられます。 ・基本的に初療にかかわった症例の担当医になります。
3) 診療経験の環境	地域に一つの総合病院で、内科領域の疾患については偏りなく経験することができ、特に初診・救急の初療から診断・治療・時には看取りまで一貫して経験することができます。
4) 学術活動の環境	・日本内科学会地方会には年間3-4件の発表をしており、多種の学会での発表を奨励しています。
指導責任者	吉嶺 厚生 【内科専攻医へのメッセージ】 本島から400kmと離れた環境に唯一の総合病院で、周辺離島や島内無医地区の患者も担当しており、入院から退院・外来まで継続的に診療することができます。社会的背景・療養環境を含めた全人的・継続的療養支援が経験できます。

指導医数 (常勤医)	・日本内科学会総合内科専門医 7 名 ・日本呼吸器学会専門医 3 名 ・日本循環器病学会循環器専門医 1 名 ・日本消化器学会専門医 1 名 ・日本腎臓学会腎臓専門医 0 名
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 (3159 名) 入院患者 (2918 名) ※ともに 1 ヶ月平均 (内科の人数)
経験できる疾患群	内科全領域の 1 次・2 次医療患者を偏りなく経験でき、総合内科医研修に求められる症例の経験をすることができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	内科急性期医療全般に加えて、慢性疾患・超高齢者・緩和ケア・終末期医療を経験できる。地域施設との連携・終末期在宅医療・離島医療・在宅医療について直接担当することができる。

名瀬徳洲会病院

1) 専攻医の環境	・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境 (Wi-Fi) があります。 ・名瀬徳洲会病院非常勤医師として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (事務室職員担当及び産業医) があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・院内託児所設置 (8:30~17:00) 利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	・内科専攻医研修医委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的 (年 2 回) に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス (2024 年度予定) を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である名古屋徳洲会総合病院で行う CPC もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科医領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・神経及び救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。
4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	平島 修 【内科専攻医へのメッセージ】 ・名瀬徳洲会病院は奄美大島という日本で沖縄に続いて 2 番目に大きい有人離島の医療圏約 4 万人の奄美市にある約 300 床の病院です。当院内科は救急車を受け入れる救急医療を含む一般医療から療養・リハビリ・地域包括ケア病床更には訪問診療から看取りまであらゆる医療体制を同時に行っております。また、僻地という特性から各専門内科医の常駐医が不在で一般内科で専門外来の知識が必要となることも多々あります。専門医療を含め病院間の協力のもと奄美大島全体で医療のあり方を考えていく必要があり、専門疾患から医療の本質を問う課題まで様々なケースを指導医と学ぶことができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 1 名 日本内科学会専門医 1 名 日本内科学会循環器内科専門医 1 名
外来・入院患者数 [2023 年度]	外来患者 8,091 名 (1 か月平均) 入院患者 291.8 日 (1 日平均)

経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> ・研修手帳にある13領域・70疾患群の症例については、高齢者・慢性期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専門医に必要な技術・技能を急性期・療養型でかつ基幹病院という枠組みのなかで、経験していただきます。 ・健診・健診後の精査・地域の内科外来としての日常診療・必要時入院診療へ繋ぐ流れ。 ・急性期をすぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療について、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方。 ・嚥下機能評価(嚥下造影にもとづく)及び口腔機能評価(歯科医師によります)による、機能に見合った食事の提供と誤嚥防止への取り組み、褥瘡についてのチームアプローチ。
経験できる地域医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・入院診療については、急性期や回復期または、他施設から転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種及び家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定とその実施に向けた調整。 ・在宅へ復帰する患者については、地域の基幹病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント(介護)と、医療との連携について。 ・地域においては、連携している有料老人ホームや老健などにおける訪問診療と、急病時の診療連携、他施設からの入院受入患者診療、地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。 ・地域における産業医・学校医としての役割。

公立陶生病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・公立陶生病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課)があります。また、メンタルヘルスに関する相談窓口を設けています。 ・ハラスメント対策委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が31名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う(2023年度実績2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に行う(2023年度実績6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2023年度実績4演題)をしています。

指導責任者	<p>近藤康博</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>公立陶生病院は、最重症の内科救急を最先端医療で対応しドクターヘリ患者搬送の受け入れも行う3次救急病院であるとともに、慢性・難治性疾患にも対応し、がん診療拠点病院でもあります。内科における13領域すべての専門医と緩和ケア専従医が在籍し、豊富な症例数から、全領域において必要十分な内科専門医としての修練が可能です。代々培われた屋根瓦方式の研修が行われ、熱い上級医の指導のもと、各種内科救急、慢性・難治性疾患、癌診療、緩和医療から在宅医療まで、内科医としての幅広い技量を身に付けられます。Common disease から専門性の高い疾患の経験、subspecialty 研修まで個人のニーズに合った幅広い研修と、院内研究会、国内・国際学会発表、論文作成に対してのアカデミック・サポートも充実しています。</p> <p>連携病院としての受け入れは、各個人の症例経験達成度も配慮し希望配属部署の調整が可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本アレルギー学会専門医(内科) 3 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、日本腎臓学会専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、 日本感染症学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか</p>
外来・入院患者数 [2023 年度]	<p>外来患者 1,595 名(1 日平均)</p> <p>入院患者 521 名(1 日平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域医療連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本東洋医学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本認知症学会専門医制度認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設</p>

	日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本膵臓学会指導施設
--	-------------------------------

熊本赤十字病院

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室、自習室、インターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(人事課)があります。 ・ハラスメント相談員を配置し、適切に対応しています。 ・医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織としてMQCセンターがあります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、医師室、仮眠室、シャワー室、リラクゼーションルーム、当直室が整備されています。 ・提携する保育所を優先利用することが可能で、院内に病児病後児保育室を完備しています。
2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 21 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会;基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研修推進室を設置します。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス研究会 熊本東部地区(内科系持ち回り)内科 Grand Rounds (月 1 回) * 院内 Grands Rounds を開業医の先生方にも開放する * 時に院外講師を招き、KUMAMOTO GIM などの企画 菊池 Medical クロスカンファレンス 年 2~3 回 阿蘇 Mediclra クロスカンファレンス 年 1~2 回 * 内科専攻医が経験した症例の検討およびスタッフの解説・討論の方式 日本医師会生涯教育講座(病診連携体験学習) ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の熊本赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、自習室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的治験審査委員会を開催し、受託研究を行っています。また、臨床研究の事務的補助を行っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	加島雅之 【内科専攻医へのメッセージ】

	<p>熊本赤十字病院はER型救命救急センターを中心とした医療を展開する急性期病院です。100床を有する、総合内科では臓器別にとられることなく、内科診療技能養成に重点を置き、総合内科医の育成を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p> <p>また、当院の特徴であるER型救急の経験を積み、地域住民によく見られる内科疾患から複数の症例を抱えたICU管理の必要な重症例まで、幅広く対応できることを目標とします。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 21名、日本内科学会総合内科専門医 25名 日本消化器病学会消化器専門医 10名、日本循環器学会循環器専門医 7名、 日本腎臓病学会専門医 8名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、 日本血液学会血液専門医 3名、日本神経学会神経内科専門医 4名、 日本アレルギー学会専門医 1名、日本救急医学会救急科専門医 17名、ほか</p>
外来・入院患者数 [2023年度]	<p>総外来患者(実数): 242,847名/年 総入院患者(実数): 15,622名/年</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療を中心に、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本脳神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本アフレスス学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高気圧環境・潜水医学会認定病院 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会専門医認定制度認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設</p>

3) 専門研修特別連携施設

1. 医療法人博愛会 頤田病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設です。 ・研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・頤田病院医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります。 ・ハラスメントに関する窓口が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・年休消化の進捗管理、業務カバー体制、職員向け病児保育室があり、ワーク・ライフ・バランスを組織的に支援しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設で行う研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である飯塚病院で行う CPC(2014 年度実績 5 回)、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・神経および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2014 年度実績 0 演題)を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>頤田病院 院長 本田宜久 【内科専攻医へのメッセージ】 頤田病院は福岡県嘉飯山医療圏の飯塚市北端にあり、1954 年の創立以来、地域医療に携わる、ケアミックス型の病院です。理念は「We Deliver the Best」であり、元々公設病院でありましたが、2008 年に医療法人博愛会に委譲されてからは、民間ならではの質改善と安定供給を重視した地域医療の提供に努めて参りました。 家庭医療／総合診療専門医プログラムの研修施設でもあり、家庭医と共に家庭医療センターではあらゆる性別・年齢・主訴に対応するプライマリ・ケアの外来を、一般病床および回復期病床では亜急性期ケア・リハビリテーション・社会調整を、在宅医療センターでは地域包括ケアを実践・研修することができ、内科や家庭医療の専門医より指導を受けられます。 海外交流も積極的に行っており、米国ピッツバーグ大学メディカルセンターやシンガポール国立大学からインスピレーションを受けた Integrated Health Care System を筑豊地域で構築することで、特に飯塚病院で急性期内科治療を終えた高齢者を対象とした病棟・外来・在宅とシームレスに繋がる地域医療体制の提供を目指しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 0 名、日本内科学会総合内科専門医 0 名 日本神経学会神経内科専門医 0 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 120 名(1ヶ月平均) 入院患者 88 名(1日平均)</p>
<p>病床</p>	<p>96 床〈回復期病棟 28 床 一般病棟 32 床 地域包括ケア病棟 36 床〉</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>外来:プライマリ・ケアの診察技法とあらゆる性別・年代・主訴に対応するための診療および予防医療サービスに関する基礎知識と診療能力。 病棟:主に虚弱高齢者を対象とした亜急性期ケア・リハビリテーションオーダー・社会調整のための基礎知識と診療能力。 在宅:末期癌患者または非癌慢性期患者の在宅医療を実施するための診療能力。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>入院診療:急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療・残存機能の評価・多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施</p>

	<p>にむけた調整。</p> <p>在宅復帰支援: 地域の内科病院としての外来診療と訪問診療・往診、それを相互補完する訪問看護との連携、ケアマネージャーによるケアマネジメント(介護)と、医療との連携。</p> <p>在宅医療: 患者宅および連携している有料老人ホームの訪問診療と、急病時の診療連携、連携型在宅療養支援診療所群(6 医療機関)の在宅療養支援病院としての入院受入。地域の他事業所ケアマネージャーとの医療・介護連携。</p> <p>その他: 地域企業の産業医。地域の乳幼児健診・学生健診。介護保険認定審査会。地域住民への予防医学講演会。</p>
学会認定施設 (内科系)	なし

2. 医療法人 社団豊永会 飯塚記念病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な医局図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・ 飯塚記念病院医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 基幹施設である飯塚病院で定期的開催されている、医療倫理・医療安全・感染対策講習会(2014 年度実績4回)の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設で行う研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である飯塚病院で行う CPC(2014 年度実績 5 回)、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・ 地域参加型のカンファレンス(呼吸器研究会、循環器研究会、消化器病研修会)は基幹病院および飯塚市医師会が定期的開催しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、代謝、腎臓、呼吸器、神経、および救急で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。救急の分野については、高度ではなく、一次・二次の内科救急疾患、より一般的な疾患が中心となります。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題の学会発表(2014 年度実績 0 演題)を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>豊永次郎 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>飯塚記念病院は福岡県飯塚医療圏の飯塚市にあり、昭和 32 年の創立以来、地域医療に携わる、精神科単科病院でした。平成 22 年精神科救急をスタートさせ、現在地域の措置入院件数 80%以上を受け入れています。平成 26 年 12 月より認知症医療センターに認定され、物忘れ外来を開始。平成 27 年 9 月私の赴任に伴い内科標榜を開始し、認知症患者、精神疾患患者の身体合併症治療を行っています。当院では、認知症患者の診断、治療、管理から予防にいたるまで、各職種が協力して集学的に治療を行っています。また糖尿病、慢性腎臓病、高血圧症に対して心血管病発症予防のために各職種と協力して厳格な治療を行っています。また、皆様をお迎えする平成 29 年 4 月には、新内科外来棟が開設予定であり、血液透析センターも併設します。</p> <p>当院では多くの精神科医(12 名)が勤務しており、精神疾患に触れる機会も多く、抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ薬等の使い方を学ぶ事も出来ます。また御希望があれば、腹部エコー、心エコーの研修も行う事は可能です。</p> <p>みなさんと一緒に働くことを楽しみにしています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 1名 日本腎臓学会専門医 1名</p>

	日本透析医学会専門医 1名 日本精神神経学会専門医 10名
外来・入院患者数	外来患者 1,200名(月平均) 入院患者 50名(月平均)
病床	400床(認知症治療病棟 60床、精神科救急 108床、精神科一般 120床、精神科療養 112床)
経験できる疾患群	研修手帳にある13領域、70疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期をすぎた患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価) ・複数の疾患を併せ持つ認知症、高齢者の診療 ・患者本人のみならず家族とのコミュニケーション ・栄養療法(静脈栄養、中心静脈栄養、経管栄養、胃瘻管理) ・エコー手技(心、腹部)の習得 ・血液透析患者へのシャント穿刺、シャントトラブルに対するPTA ・嚥下機能評価および口腔機能評価(歯科医師による)
経験できる地域医療・診療連携	入院診療については、急性期病院から急性期治療後に転院してくる治療、療養が必要な入院患者の診療を行います。残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針、療養の場の決定と、その実施にむけた調整を行います。 在宅へ復帰する患者については、外来診療と訪問診療、それを相互補完する訪問看護とも連携し、必要であればケアマネージャーを通じて介護への介入も行います。
学会認定施設(内科系)	なし

3. 社会福祉法人 柏芳会 田川新生病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境(Wi-Fiを2016年4月に整備予定)があります。 ・田川新生病院医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(産業医)があります。 ・ハラスメント委員会(職員暴言・暴力担当窓口)が設置されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である飯塚病院で行う研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設である飯塚病院で行うCPC(2014年度実績5回)、もしくは日本内科学会が企画するCPC、および地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	カリキュラムに示す内科領域 13分野のうち、神経の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	日本内科学会講演会あるいは同地方会への学会発表に取り組む環境を提供します。
指導責任者	<p>光永吉宏 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>田川新生病院は福岡県田川医療圏の田川市にあります。平成14年3月に国より委譲を受け「社会福祉法人柏芳会田川新生病院」としてスタートし、以来閑静な自然環境の中で地域に根ざし治療を行っています。「地域の健康長寿に貢献する」を経営理念とし、地域の中で生涯、生活を送る皆様に健康長寿を最終目標とした医療サービスを提供することを目的としています。</p> <p>病床としては脳梗塞などに罹患され身体の運動能力低下により自宅退院が困難になった場合に、集中的にリハビリテーションを行い、早期の在宅復帰を目指す「回復期リハビリテーション病棟(60床)」と神経難病等の重度の障害になられた患者様に入院していた</p>

	<p>だく「障害者施設等病棟(30床)」を有し、特に長期に入院される患者様にも快適に療養生活を送ることの出来るよう療養環境を整え、きめ細かい対応を心がけています。病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。</p>
指導医数(常勤医)	日本神経学会神経内科専門医2名
外来・入院患者数	外来患者 62名(1ヶ月平均) 入院患者 82名(1日平均)
病床	90床< 障害者施設等病棟 30床 回復期リハビリテーション病棟 60床 >
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、特に神経難病長期療養患者の診療を通じて経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。
経験できる技術・技能	<p>内科専門医に必要な技術・技能を、療養病床であり、かつ地域密着型の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。</p> <p>急性期を過ぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療はもちろん、障害者施設等病棟ではレスパイトの受け入れも行っており、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方などが経験できます。また、病院全体で褥瘡発生ゼロを心がけ、チームアプローチを行っています。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整を行っています。</p> <p>在宅へ復帰する患者については、地域の病院としての外来診療と、それを相互補完する訪問看護との連携についても経験できます。</p>
学会認定施設(内科系)	なし

4. 医療法人博愛会 京都病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な図書機能とインターネット環境があります。 ・ 京都病院医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(事務室職員担当および産業医)があります。 ・ ハラスメントに関する窓口が設置されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全・感染対策・褥創対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である飯塚病院で行う研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 基幹施設である飯塚病院で行う CPC(2014 年度実績 5 回)、および地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器・神経・消化器内科・総合内科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	日本内科学会講演会あるいは同地方会への学会発表に取り組む環境を提供します。
指導責任者	<p>京都病院 院長 岡松秀一 【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>京都病院は福岡県京築医療圏の京都郡みやこ町にあり、昭和 45 年の創立以来、地域医療に携わる、医療療養型病院です。理念は「We Deliver the Best～あたたかい思いやりと、まごころを大切にします」であり、在宅復帰をめざす医療療養病床です。外来では、循環器内科を中心に、消化器内科・神経内科・総合診療科の充実に努め、また整形外科も併せた地域に根ざした医療を提供しています。また、一般健診や企業健診の充実に努めています。</p> <p>医療療養病床としては、①急性期後の慢性期・長期療養患者診療、②慢性期患者の在</p>

	<p>宅医療(自宅・施設)復帰支援を行う一方、③外来からの急性疾患患者の入院治療・在宅復帰、④在宅患者(自院の在宅患者、および連携医療機関の在宅患者)の入院治療・在宅復帰、⑤在宅復帰支援に向けてのリハビリテーション治療、⑥ターミナルケア、に力を注いでいます。</p> <p>病棟では医師を含め各職種が協力してチーム医療をおこない、各医師・各職種および家族を含めたカンファレンスを実施し治療の方向性、在宅療養の準備を進め、外来・在宅担当医師・スタッフへとつないでいます。</p>
指導医数(常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医・日本循環器学会認定循環器専門医 1名 日本内科学会認定内科医・日本神経学会専門医 1名 日本消化器内視鏡学会認定医 1名、認定病院総合診療医 1名</p>
外来・入院患者数	外来患者 50名(1日平均) 入院患者 165名(1日平均)
病床	174床〈療養病棟入院基本料 1 116床、療養病棟入院基本料 2 58床〉
経験できる疾患群	<p>研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>内科専門医に必要な技術・技能を習得できる療養病床であり、かつ地域密着型の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。</p> <p>特に高齢者に多い重症心不全など循環器疾患には力を入れており、急性期を過ぎた療養患者の機能の評価(認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価)、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療はもちろん、緩和ケアや人工呼吸器装着・腹膜透析の在宅療養中患者に対してのレスパイト入院の受け入れも行っており、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方などが経験できます。また、病院全体で褥瘡発生ゼロを心がけ、チームアプローチを行っています。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整を行っています。</p> <p>在宅へ復帰する患者については、地域の病院としての外来診療と、リハビリテーション(運動器・脳血管疾患・呼吸器・心大血管疾患・がん患者リハビリテーション)との連携についても経験できます。</p>
学会認定施設(内科系)	

5. 医療法人社団陣内会 陣内病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境が整備されている。 ・適切な労務環境が保証されている ・研修期間中は、飯塚病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を行い、陣内病院の症例指導医(陣内秀昭)が飯塚病院の担当指導医とともに専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保つ。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し、研修指導を行う。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより、研修指導が行われる。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究が可能な環境と倫理委員会の開催があります。
指導責任者	<p>陣内秀昭 【内科専攻医へのメッセージ】</p>

	<p>糖尿病医療におけるチーム医療あるいは個別化医療の重要性が増している今日、多様な症例像を経験することは、医師としての基本的なスキルの向上につながるものと思われます。進歩・発展・変容する糖尿病医療のスキルアップを図りたい方に当院での研修をおすすめします。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 0名、日本内科学会総合内科専門医 1名 日本内科学会認定内科医 4名、日本臨床内科医会認定医 3名、 日本糖尿病学会指導医 2名、日本糖尿病学会専門医 4名 日本循環器学会 循環器専門医 2名 日本心臓学会 心臓病上級臨床医 1名、 日本高血圧学会 高血圧専門医 1名、 日本動脈硬化学会 動脈硬化専門医 1名 日本禁煙学会指導医 1名、日本病態栄養学会専門医 1名 日本眼科学会専門医 1名</p>
外来・入院患者数 病床	<p>外来患者 3,462名(1ヶ月平均) 入院患者 22名(1日平均)平成27年度実績 38床</p>
経験できる疾患群	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病治療センターとして機能特化した病院であり、小児(6歳)から超高齢者(97歳)まで幅広い年齢層にて、様々な病型・合併症例の糖尿病を経験可能。 ・ 研修手帳にある13領域、70疾患群については、糖尿病を基礎疾患とする患者の合併・複合疾患としての経験となる。 ・ 循環器内科疾患については、循環器内科専門医による専門治療が経験可能。(ただしカテーテルでの検査・治療体制はなし) ・ 患者の約6割が65歳以上で、内、80歳以上の約400名通院中であり、複合的な疾患に加齢変化が強く関与した高齢者の総合内科治療が多数経験できる。 ・ 糖尿病治療管理の一環として、禁煙指導(呼吸器)、フットケア、(皮膚科、整形外科)、糖尿病が基礎疾患の血管障害の治療管理(循環器内科)、糖尿病腎症の治療管理(腎臓内科)、糖尿病腎症が原疾患の透析治療管理を経験できる。 ・ 眼科との併診にて糖尿病・循環器疾患による眼科疾患の診断と治療管理を経験できる。
経験できる技術・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖尿病の診察、検査所見解釈、診断と治療方針決定と治療評価。 ・ 循環器内科疾患の診察、検査所見解釈、診断と治療方針決定、治療評価。 ・ かかりつけ医としての総合的な診断と院外専門医へのコンサルテーション。 ・ 糖尿病の治療機器については、国内販売されている糖尿病の在宅治療デバイスの全てを揃えており、CGMやCSIIを用いた血糖管理が経験できる。 ・ 一般的な内科医の検査項目に加えて、糖尿病の合併症の早期検出のための血管診断に特化した臨床検査体制を取っているため、糖尿病特有の検査が経験できる。特殊な検査機器としては、グルコースクランプによる病態診断・薬物治療評価や、Endo-PATによる血管内皮機能測定が経験できる。 ・ トレッドミル、心エコーの検査と診断。 ・ 糖尿病に関わる治験や臨床研究を経験できる。 ・ 糖尿病教育プログラム、教育入院による患者教育。
経験できる地域医療・ 診療連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度医療機関や拠点病院のほか、患者の居住地のかかりつけ医など、様々な院外施設と互いの専門領域で併診を行い、総合的な健康管理体制を構築するための病病・病診連携。 ・ 院外からのコンサルテーションに応じ糖尿病の精査診断、インスリン等の処方調整、術前血糖管理などの専門治療を請け負う病病・病診連携 ・ 地域包括ケア、在宅医療・介護のサービス拠点との連携体制 ・ 地域の拠点病院が実施するカンファレンスへの参加 ・ 患者のピアカウンセリング活動支援(患者会、小児1型糖尿病患者の学校説明、地域の糖尿病教室への講師派遣などの市民啓発活動支援) ・ 糖尿病教育に携わるコメディカルスタッフの育成支援 ・ 院内においては、糖尿病専門医・循環器専門医・眼科専門医・日本糖尿病療養指導士(コメディカルスタッフ)とのチーム医療を経験できる。
学会認定施設	<p>日本糖尿病学会認定教育施設</p>

(内科系)	日本動脈硬化学会認定教育施設(申請中)
-------	---------------------

6. 瀬戸内徳洲会病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期医療研修における地域医療研修施設(協力型)です。 ・研修に必要な医局内図書室とインターネット環境(Wi-Fi)があります。 ・瀬戸内徳洲会病院非常勤医師として労働環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(産業医および事務担当)がいます。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。 ・医師用の借上げ宿舎完備(インターネット環境(Wi-Fi)あり)
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南鎌倉病院と総合内科を提携し、Skype を用いたカンファレンスを月1回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し、研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより、研修指導が行われます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、感染症、救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。救急は高度ではなく、1次2次救急疾患より一般的な疾患が中心となります。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会学術大会、同地方会、あるいは徳洲会グループの離島ブロック研修会で年数回の発表を予定しています。</p>
<p>指導責任者</p>	高野 良裕(院長)
<p>指導医数 (常勤医)</p>	日本内科学会認定医1名(加計呂麻徳洲会診療所兼務)
<p>外来・入院 患者数</p>	外来患者 2,070名(1ヶ月平均)、入院患者 53.4名(1日平均)
<p>経験できる疾患群</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・13領域、70疾患群の症例については、慢性長期療養患者の診療を通じて、複数の疾患を合併する高齢者の治療、全身管理、今後の療養の方針について深く学ぶことが可能です。 ・在宅/訪問診療も経験可能です。
<p>経験できる技術・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内科専門医に必要な技術、技能を地域の内科的な中心の病院で学んでいきます。外来などを通じて、診療技術の向上を目指します。患者様の家族などとも深くコミュニケーションをとれるようにします。リハビリスタッフ・看護師などのパラメディカルとも良好なコミュニケーションをとれるように指導していきます。
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者様が退院していく中で、外来での治療方針、あるいは今後自宅へ帰宅してからの介護サービスの提案などが出来るよう指導していきます。ケアマネージャー、ヘルパー、他施設職員とも患者様を中心としたより良い治療介護サービスが受けられるように、綿密にコミュニケーションをとれるように指導します。
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	なし

7. 松口循環器科・内科医院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要なインターネット環境があります。 ・労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口があります。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室が整備されています。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が1名在籍しています(下記)。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、10 分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>松口 武行 【内科専攻医へのメッセージ】 かかりつけ医として、循環器科疾患に留まらず、総合診療医として外来診療を行っています。また、24 時間体制の在宅医療を当院の 1 つの柱としています。九州で在宅に関わる医師の大半が当院での研修を経験しており、九州地域における在宅医のルーツになっています。 在宅医療に少しでも興味のある方、将来開業を考えている方、何か新しいことを経験してみたい方は当院での研修をおすすめします。</p>
<p>指導医数(常勤医)</p>	<p>日本循環器学会専門医 1 名</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 10 領域、30 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>在宅診療に関連するスキルを修得できます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、在宅診療、病診・病病連携などが経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本在宅医学会専門医研修施設</p>

飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会

(平成 30 年 3 月現在)

飯塚病院

増本 陽秀	プログラム統括責任者、委員長
井村 洋	総合診療科部長、研修委員長
本村 健太	肝臓内科部長
海老 規之	呼吸器腫瘍内科部長
飛野 和則	呼吸器内科部長
赤星 和也	消化器内科部長
油布 祐二	血液内科部長
吉野 俊平	総合診療科診療部長
永野 修司	膠原病リウマチ内科部長
柏木 秀行	緩和ケア科部長代行
平川 亮	腎臓内科部長
井上 修二郎	循環器内科部長
高瀬 敬一郎	神経内科部長
田原 英一	漢方診療科部長
木附 康	心療内科部長
井手 誠	内分泌・糖尿病内科部長代行
池 賢二郎	経営管理部長

教育推進本部代表者

連携施設担当委員

九州医療センター	富永 光裕	内科専門研修管理委員会委員長
小倉記念病院	米澤 昭仁	血液内科部長
今村総合病院	西垂水 和隆	救急・総合内科 主任部長
神奈川県立循環器呼吸器病センター	萩原 恵里	呼吸器内科医長
東京ベイ・浦安市川医療センター	江原 淳	総合内科・消化器内科医長、 総合内科プログラム責任者
伊東市民病院	藤井 幹久	副病院長
三重県立志摩病院	森 将之	内科医師
前田病院	前田 篤宏	副院長・医局長
古賀総合病院	榎木 誠一	内分泌代謝内科医長

オブザーバー 内科専攻医代表 2 名

飯塚病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医(かかりつけ医)
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科の専門医
- ④ 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

飯塚病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と総合医的なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。

そして、福岡県筑豊医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はサブスペシャリスト領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

飯塚病院内科専門研修プログラム終了後には、飯塚病院内科専門研修施設群(下記)だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

基幹施設である飯塚病院内科で、2年間の専門研修を行います。

3) 研修施設群の各施設名(P.16「飯塚病院研修施設群」参照)

基幹施設:	飯塚病院	
連携施設:	・九州医療センター	・東京ベイ・浦安市川医療センター
9施設	・小倉記念病院	・伊東市民病院
	・今村総合病院	・三重県立志摩病院
	・前田病院	・神奈川県立循環器呼吸器病センター
	・古賀総合病院	
特別連携施設:	・潁田病院	・陣内病院
8施設	・飯塚記念病院	・瀬戸内徳州会病院
	・田川新生病院	・松口循環器科内科医院
	・京都病院	

4) プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名 (P. 51「飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照)

* 指導医師名簿

認定医・専門医資格の番号は以下の通り

1. 認定内科医 2. 総合内科専門医 3. 日本消化器病学会消化器専門医
4. 日本肝臓学会肝臓専門医 5. 日本循環器学会循環器専門医 6. 日本内分泌学会専門医
7. 日本腎臓病学会専門医 8. 日本糖尿病学会専門医 9. 日本呼吸器学会呼吸器専門医
10. 日本血液学会血液専門医 11. 日本神経学会神経内科専門医 12. 日本アレルギー学会専門医
13. 日本リウマチ学会専門医 14. 日本感染症学会専門医 15. 日本老年医学会老年病専門医
16. 日本救急医学会救急科専門医

施設名	氏名	職責	専門医資格	氏名	職責	専門医資格	
飯塚病院	増本 陽秀	院長	1 2 3 4	高瀬 敬一郎	部長	1 11	
	本村 健太	部長	1 2 3 4	前田 教寿	医長代理	1 11	
	矢田 雅佳	診療部長	1 2 3 4	中村 憲道	医長	1 11	
	田中 紘介	医長	1 3 4	赤星 和也	部長	1 2 3	
	海老 規之	部長	1 2 9	久保川 賢	診療部長	1 3	
	飛野 和則	部長	1 2 9	宜保 淳也	診療部長	1 3	
	轟野 広介	医長	1 2 9	淀江 賢太郎	医長	1 3	
	井手 ひろみ	医長	1 9	長田 繁樹	医長代理	1 3	
	浅地 美奈	医長代理	1 9	坂井 佳世	医長代理	1 3	
	神 幸希	医長代理	1 9	平川 亮	診療部長	1 2 7	
	吉松 由貴	医長代理	1 2 9	佐々木 彰	医長代理	1 5	
	油布 祐二	部長	1 2 10	中下 さつき	医長	1 2 7	
	喜安 純一	医長	1 2 10	井上 修二郎	部長	1 5	
	松島 孝充	診療部長	1 2 10 13	今村 義浩	診療部長	1 2 5	
	井村 洋	部長	1 2	堤 孝樹	医長	1 2 5	
	中村 権一	診療部長	1 2	河野 俊一	診療部長	1 5	
	小田 浩之	診療部長	1 2	稲永 慶太	診療部長	1 2 5	
	吉野 俊平	診療部長	1 2	中野 正紹	医長	1 2 5	
	松永 諭	医長	1 2	田原 英一	部長	1 2 12	
	江本 賢	医長代理	1 2	矢野 博美	診療部長	1 2	
	吉野 麻衣	診療部長	1 2	井上 博喜	医長	1 2	
	橋本 法修	医長代理	1 2	吉永 亮	医長	1 2	
	富山 周作	医長代理	1 2	溝口 孝輔	医長	1 3	
	的野 多加志	医長	1 2 14	井手 誠	部長	1 8	
	永野 修司	部長	1 2 8 13	柏木 秀行	部長代行	1 2	
	内野 愛弓	医長	1 2 13	岡村 知直	医長代理	1	
	神奈川県立 循環器呼吸器病 センター	小倉 高志	副院長	1 2 9	萩原 恵里	部長	1 2 9 14
		小松 茂	部長	1 2 9 12	大河内 稔	医長	1 2 9
篠原 岳		医長	1 2 9 12	馬場 智尚	医長	1 2 9	
北村 英也		医長	1 9	関根 朗雅	医長	1 2 9	
奥田 良		医長	1 2 9	織田 恒幸	医長	1 9	
山川 英晃		医師	1 9	池田 慧	医師	1 9	
福井 和樹		部長	1 2 5	濱井 順子	医長	1 6 8	

古賀総合病院	榎田 誠一	医長	1			田井 博	部長	1	2	3		
	松浦 祐之介	医長	1	5		土持 若葉	医長	1	2	8		
今村総合病院	納 光弘	会長	1	11	15	林 恒存	部長	1	2			
	宇都宮 與	院長	1	10		佐多 玲子	医員	1	2			
	上田 博一郎	部長	1	2	3	畠中 成己	医員	1	2			
	市來 征仁	部長	1	2		宮園 卓宜	部長	1	2	3	10	
	西垂水 和博	主任部長	1	2								
小倉記念病院	金井 英俊	副院長	1	2	7	吉田 智治	部長	1	3			
	安藤 献児	診療部長	1	2	5	米澤 昭仁	部長	1	2	10		
	白井 伸一	部長	1	5		曾我 芳光	部長	1	2	5		
	兵藤 真	部長	1	5		松本 省二	部長	1	11			
	白井 保之	副部長	1	3		大中 貴史	副部長	1	2	10		
	福岡 晃輔	副部長	1	2	7	青山 浩司	副部長	1	3	4		
	森永 崇	医員	1	2	5	平森 誠一	医員	1	2	5		
	鱸居 祐輔	医長	1	2	5							
東京ベイ・浦安市川医療センター	山田 徹	指導医	1	2		江原 淳	指導医	1	2			
	藤谷 茂樹	指導医	1	2	14	16	木下 順二	指導医	1	2		
	平岡 栄治	指導医	1	2	5		奥村 弘史	指導医	1	2	5	
	野口 将彦	指導医	1	2	5		鈴木 利彦	指導医	1	2	7	
	則末 泰博	指導医	1	2			横山 裕	指導医	1	9		
	宮崎 岳大	指導医	1	2			柴山 謙太郎	指導医	1	2	5	
							飯笹 泰藏	診療情報管理室室長 兼経営戦略室室長	1	13		
伊東市民病院	藤井 幹久	副病院長	1	5		飯笹 泰藏	診療情報管理室室長 兼経営戦略室室長	1	13			
	川合 耕治	病院長	1	2	3	築地 治久	伊豆総局長兼認知症疾患医療センター長	1	2	11		
	仲程 潤	指導医	1	2	3							
前田病院	前田 篤宏	副院長	1	2	7	前田 麻木	院長	1	2	8		
	松崎 美和子	指導医	1	2	10							
三重県立志摩病院	森 将之	医師	1	2	5							
九州医療センター	門脇 賢典	医師	1	10								

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 1 年次および 2 年次の秋から冬に専攻医の希望・将来像、研修達成度および指導医数やメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)などを基に、飯塚病院院内ローテーション診療科・連携施設・時期・順番を決定します。原則 1 年次の 1~2 単位は救急部ローテーションがあります。

選択可能な飯塚病院院内内科ローテーション診療科は、肝臓内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、消化器内科、血液内科、総合診療科、膠原病リウマチ内科、緩和ケア科、腎臓内科、循環器内科、神経内科、漢方診療科、心療内科、救急部などです。

図 1。飯塚病院内科専門研修モデル

年次	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専攻医 1 年次	飯塚病院 院内内科ローテーション (1 単位 6 週~7 週)									連携施設①3ヶ月 頼田病院、飯塚記念病院 より調整の上、決定		
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など											

専攻医 2年次	飯塚病院 院内内科 ローテーション	連携施設②3ヶ月 東京ベイ・浦安市川医療 センター	連携施設③3ヶ月 瀬戸内徳州会病院、 三重県立志摩病院、 伊東市民病院 より調整の上、決定	飯塚病院 院内内科 ローテーション
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC、JMECC など			
専攻医 3年次	連携施設④3ヶ月 全連携施設 より調整の上、決定	飯塚病院 院内内科ローテーション		
	各科レクチャー、医療倫理・医療安全・感染防御セミナー、CPC など			

※院外ローテーションは原則案であり、時期およびローテーション先は、専攻医数および当院もしくは連携施設の状況によっては、例外として、各年次研修先の調整や変更を、当方の判断で行なうこともある。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である飯塚病院診療科別診療実績を以下の表に示します。飯塚病院は地域基幹病院であり、コモンディージーズを中心に診療しています。

表。飯塚病院診療科別診療実績

2017年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
肝臓内科	433	17,955
呼吸器内科	1,287	22,472
心療内科	0	5,129
内分泌・糖尿病内科	326	20,435
消化器内科	1,747	21,481
血液内科	274	9,919
総合診療科	2,427	16,627
膠原病・リウマチ内科	176	14,173
緩和ケア科	435	1,484
循環器内科	1,387	25,323
神経内科	787	9,038
腎臓内科	451	32,330
漢方診療科	53	23,825
救急部	184	251

- * 比較的入院患者数が少ない代謝、内分泌、血液、膠原病(リウマチ)領域でさえ、1学年17名に対し十分な症例経験が可能です。
- * 13領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています(P.16「飯塚病院内科専門研修施設群」参照)。
- * 剖検体数(内科系)は2012年度20体、2013年度20体、2014年度11体で3年度平均17体であり、2015年度も20体以上の見込みです。専攻医の数を満たす剖検は十分に実施できます。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

サブスペシャル領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

総合診療科および各診療科ローテを行い、主担当医としての経験を積みます。専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、サブスペシャル上級医の判断で 5 ～10 名程度を受持ちます。症例によっては、適宜、領域横断的に受持ちます。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月頃と 2 月頃に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 ヶ月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善を尽くします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善を尽くします。

9) プログラム修了の基準

① J-OSLER を用いて、以下の i)～vi)の修了要件を満たす必要があります。

i) 主担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができます)を経験することを目標とし、その研修内容を J-OSLER に登録していること。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます)を経験し、登録済みであること(P. 62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)

iii) 筆頭者として 2 件以上の学会発表あるいは論文発表

iv) JMECC 受講

v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講

vi) J-OSLER を用いたメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価により、医師としての適性が認められている

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを飯塚病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 ヶ月前に飯塚病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉[研修カリキュラム項目表](#)の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設 2 年間+連携・特別連携施設 1 年間)としますが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1ヶ月単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ii) 履歴書

iii) 飯塚病院内科専門医研修プログラム修了証(コピー)

② 提出方法

日本専門医機構が定める方法に従って提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設と飯塚病院とで取り決めた待遇基準に従います(P.16「飯塚病院研修施設群」参照)。

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院である飯塚病院を基幹施設として、福岡県筑豊医療圏の地域包括ケア・認知症ケアに加えて、僻地・離島医療の経験を積むことができる連携施設・特別連携施設での研修を経て異なる医療を経験・学習し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間になります。
- ② 飯塚病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である飯塚病院は、福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である飯塚病院および連携施設・特別連携施設での 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます(P.62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。
- ⑤ 飯塚病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 1 年次の 3 ヶ月間、2 年次の 6 ヶ月間、3 年次の 3 ヶ月間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である飯塚病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間で、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、J-OSLER に登録します(P.62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。

13) 継続したサブスペシャル領域の研修の可否

- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来(初診を含む)、サブスペシャル診療科外来(初診を含む)、サブスペシャル診療科検査を担当します。結果として、サブスペシャル領域の研修につながることはあります。
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャル領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良への姿勢

専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月頃および 2 月頃に行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、プログラム管理委員会、および教育推進本部が閲覧し、集計結果に基づき、飯塚病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

飯塚病院内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1 人の担当指導医(メンター)に専攻医 1 人が飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や教育推進本部からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はサブスペシャルの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャルの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医はサブスペシャル上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修(専攻医)2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。
- 2) 専門研修の期間
 - ・ 年次到達目標は、P. 62 別表 1「飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、教育推進本部と協働して、4 ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、教育推進本部と協働して、6 ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、教育推進本部と協働して、6 ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、教育推進本部と協働して、毎年 8 月頃および 2 月頃に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 ヶ月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。
- 3) 専門研修の期間
 - ・ 担当指導医はサブスペシャルの上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。
 - ・ J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成

の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。

- ・主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) J-OSLER の利用方法

- ・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と教育推進本部はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、プログラム管理委員会および教育推進本部が閲覧します。集計結果に基づき、飯塚病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時(予定された時期の他に)で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価(内科専門研修評価)を行い、その結果を基に飯塚病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

飯塚病院および各連携施設の給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修(FD)の実施記録として、J-OSLER を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」(仮称)を熟読し、形成的に指導します。

- 10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

別表 1 飯塚病院疾患群症例病歴要約到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数	
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標		
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1			
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1			
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1			
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1			3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上			3
	内分泌	4	2以上※2	2以上			3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上			
	腎臓	7	4以上※2	4以上			2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上			3
	血液	3	2以上※2	2以上			2
	神経	9	5以上※2	5以上			2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上			1
	膠原病	2	1以上※2	1以上			1
	感染症	4	2以上※2	2以上			2
	救急	4	4※2	4			2
外科紹介症例					2		
剖検症例					1		
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3		
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上			

- ※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
- ※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。
- ※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)
- ※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例)「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例
- ※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表2 飯塚病院内科専門研修 診療科別週間スケジュール(例)

- ・ 飯塚病院内科専門研修プログラム「4.専門知識・専門技能の習得計画」に従い、研修を実践します。
(スケジュールはあくまでも一例であり、概略です。)
- ・ 各診療科のバランスにより、担当する業務内容や曜日、時間帯は調整・変更があります。
- ・ 入院患者診療には、各診療科の入院患者の診療を含みます。
- ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科の当番として担当します。
- ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

●肝臓内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:30～	入院患者診療					担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
	～17:00	入院患者診療					
午後	17:00～ 18:30				肝疾患入院・評価 及肝内病棟カンフ アレンス 肝臓内科・外科合 同カンファレンス		
	17:30～ 18:00	内視鏡カンファ レンス[肝/消]					
	17:30～ 18:30		肝疾患外来・評価 カンファレンス 肝臓内科・外科合 同カンファレンス	肝抄読会			
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●呼吸器内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:00～8:30						担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
	8:30～	入院患者診療					
	～17:00	入院患者診療					
午後	12:30～ 14:00				呼吸器内科症 例検討会		
	16:30～ 18:30					呼吸器腫瘍カン ファレンス・抄読 会(呼内・呼外)	
	17:00～ 18:00		呼吸器カンファ レンス(呼内・呼 外)				
	18:00～ 19:00	呼吸器画像・病 理カンファレンス [呼内/呼外/画/ 病]					
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●内分泌・糖尿病内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:30～	担当入院患者診療、外来新患診察、他科入院中コンサルト新患症例診察					担当患者の病態 に応じた診療/
午後	～17:00	担当入院患者診療					

	15:00～ 17:00	薬品説明会 & ミ ーティング (16:30～)	病棟総回診 (16:00～)	入院患者症例 検討会 (15:30～)	甲状腺吸引細 胞診 (15:00～)		オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●消化器内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	7:30～8:00					勉強会及びE SD症例カンフ アレンス	担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
	8:30～ ～17:00	外来診療、内視鏡検査・処置など 内視鏡検査・処置など					
午後	17:30～ 18:00	膵胆道内視鏡 カンファレンス					
	17:30～ 18:30		入院患者カンフ アレンス [内視鏡C]	消化管癌キャン サーボード			
	18:00～ 18:30	静脈瘤硬化療法 カンファレンス					
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●血液内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日	
午前	8:30～	入院患者診療						担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
午後	～17:00	入院患者診療						
		16:00～16:30 南 3A 入院患者カンフ ア(南 3A ナース ステーション)			16:00～17:00 骨髓所見会(2 階病理検査 室)	16:00～ 16:20 H3F 多職種カ ンファ(ハイケ ア棟 3 階ナ ースステーシ ョン)		
			16:30～ 17:00 抄読会(ハイケ ア棟 3 階面談 室)			16:20～ 18:00 全入院患者カン ファ(ハイケア棟 3 階面談室)		
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など								

●総合診療科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:00~8:30	モーニングレクチャー	8:00~9:00 新患紹介カンファレンス				担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会／病院イベント参加など
	8:30~9:30	退院患者カンファレンス					
	カンファ後~	外来診療・入院患者診療					
午後	~17:00	外来診療・入院患者診療					
	17:00~18:30			輪読会 [総/研]			
	18:00~19:00				シニアカンファレンス		
担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直 など							

●膠原病リウマチ内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:30~	入院患者診療					担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会／病院イベント参加など
午後	~17:00	入院患者診療					
	16:00~17:00			膠原病・リウマチ内科スタッフミーティング(第4)			
	17:00~	症例カンファレンス		総回診、症例カンファレンス	抄読会、カンファレンス		
担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直 など							

●連携医療・緩和ケア科

	月	火	水	木	金	土/日
8:30-9:00	訪問診療	朝カンファ				担当患者の病態に応じた診療／オンコール／日当直／講習会・学会／病院イベント参加など
9:00-14:00		入院患者管理				
14:00-15:00		心不全緩和ケアチーム(HST)	緩和ケア他職種カンファレンス		訪問診療	
15:00-16:00	レクチャー			レクチャー		
16:00-17:00	入院患者管理/ 引継					

●腎臓内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:00-8:30	週末報告・割振 週間予定確認 【全体】	抄読会 【全体】	担当患者レビュー 【チーム】		新患紹介 重症・問題症例紹介 【全体】	※
	8:30-9:00	担当患者レビュー 【チーム】		担当患者レビュー 【チーム】			
入院患者診療・他科コンサルト症例サポート							
入院患者診療							
午後	16:00- 17:00			腎病理カンファ 1回/月【全体】			
	17:00- 18:00	担当患者振り返りおよび回診 【チーム】					
	※						

●循環器内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:00~8:30	当直報告 症例検討会 [循 環器 C]	当直報告 症例検討会 [循 環器 C]	(7:45~) 当直報告 死亡症例検討 [循環器 C]	当直報告 症例検討会 [循 環器 C]	当直報告 症例検討会 [循 環器 C]	担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
	8:30~	外来診療・入院患者診療					
午後	~17:00	入院患者診療					
	13:30~		循環器内科 総回診				
	17:00~ 17:30	抄読会					
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など						

●脳神経内科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:00~9:00	新患症例検討会					担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
	8:30~	外来・入院患者診療					
午後	~17:00	外来・入院患者診療					
	13:15~ 14:00				総合カンファレン ス [神内/リハ/ 薬剤/南 1A]		
	14:00~ 15:30				病棟総回診		
	15:30~ 17:00				神経内科カンフ アレンス/抄読会		
	18:00~ 19:00	画像カンファレン ス [神内/脳外/ 画診] (第 4)					
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●漢方診療科

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	8:05~8:25	勉強会					担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
	8:30~	外来・入院患者診療					
午後	~17:00	外来・入院患者診療(月・木病棟回診)					
	16:30~ 20:00	病棟カンファレンス					
	17:30~ 18:30		漢方基礎勉強会				
担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など							

●救急部

		月	火	水	木	金	土/日/祝日
午前	7:00~8:00	症例振り返りカンファ					担当患者の病態 に応じた診療/ オンコール/日 当直/講習会・ 学会/病院イベ ント参加など
午後	19:00~ 20:00	症例振り返りカンファ					
	19:30~		救急部スタッフ 会議				
	担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直 など						